



デートDV予防教育 実施状況調査報告書

実施状況調査報告に寄せて

特定非営利活動法人デートDV防止全国ネットワーク

代表理事 山口のり子

本年度、デートDV防止全国ネットワークは、予防・防止教育のさらなる普及を目的に、デートDV予防・防止教育として、全国各地でどのようなものが、どのくらい、どのように実施されているか調査しました。全国の多くの皆さんからご協力をいただき、一部ではあるとは思いますが状況を明らかにすることができました。また、回答してくださった多くの方が、若者や子どもたちにぜひ伝えたいと思う大事なことがらなどについて書いてくださいました。実施状況だけでなく、各地で実施している方たちの熱い思いが伝わってくる声も、本書でご報告できることをうれしく思います。

当調査で得られた結果は、来年度に予定しているデートDV予防教育の効果測定本調査のための検討材料とします。私たちは今後とも、子どもたちにとってほんとうに必要な予防と防止のための教育とはどのようなものか、その教育の効果はどのように測るべきかなどの議論を重ねつつ、国や自治体にデートDV予防・防止教育の普及を働きかけていきます。

本年度の調査にご協力くださった皆さまに御礼を申しあげるとともに、引き続き皆さまのご理解と一層のご支援をお願いいたします。

<目 次>

I	調査の概要	P 1
II	調査結果	P 3
1.	回答者について	P 4
2.	調査結果	P 5
	①受講人数	P 6～12
	②実施回数	P 13
	③実施方法	P 14
	④実施単位	P 15
	⑤実施時間	P 16
	⑥費用負担	P 17
	⑦自由記述から	P 18
	a. プログラムの内容で大切と考え、必ず伝えていることから	P 18～22
	b. プログラムの特徴や実施にあたり工夫していること	P 23～17
	c. 予防教育を進めるために必要なこと	P 28～30
	d. その他の意見	P 31～32

デートDV予防教育実施状況調査報告書

I 調査の概要

1. 調査の目的

全国各都道府県でのデートDV予防（防止）教育の実施状況を調査することで、デートDV予防（防止）教育のさらなる普及を図る。

2. 調査の方法

①調査対象

民間団体（個人）または行政機関が、学校（小学校・中学校・高等学校・大学・専門学校等）の授業時間に行うデートDV予防（防止）教育（学校内の教員が行う授業や冊子等を配付するだけものを除く）（「デートDV」等の言葉を使うか、言葉は使っていないなくても内容がデートDVに関することであることを条件とする）

委託事業等で重複の回答を避けるため、原則として予防教育の実施者（講師）が回答することとする。講師が回答しない場合のみ、委託元が回答することがあってもかまわない。

②調査対象期間

2018年4月～2019年3月の実施状況

③調査実施期間

2019年7月1日～10月15日（回答期限：10月15日）

④調査の方法

回答用紙（エクセル）をメールでの提出

3. 調査の内容

①基本情報：予防（防止）教育の実施者（団体）の名称・住所・連絡先・担当者名
（基本情報は公開しない）

②実施場所：都道府県名・市区町村名

③実施対象：小学校・中学校・高等学校・大学・専門学校・その他の学校
実施した学校数・受講者の人数（わかれば学年ごとの人数）

④実施方法：ワークショップ形式・講義形式・その他
クラス単位・学年単位・学校単位・その他

⑤実施時間：45分未満・45分以上60分未満・60分以上90分未満・90分以上
120分未満・120分以上

⑥費用の負担：学校・行政・助成金・その他

⑦自由記述

- ・プログラムの内容で大切であると考えて必ず伝えることがら
- ・プログラムの特徴や実施にあたり工夫していること
- ・実施機会を増やすために何が必要だと思うか、デートDV防止全国ネットワークに対する要望
- ・ご意見や伝えたいことなどご自由に

Ⅱ 調査結果

全国には現在、170 以上の民間団体や行政機関がデート DV 予防教育を実施していると思われます。この調査の結果は、今回回答のあった 79 団体（個人を含む）の結果を集計したものであり全国のデート DV 予防教育のすべてを網羅しているものではありません。

1. 回答者について

デート DV 予防全国ネットワークホームページ (<https://notalone-ddv.org/>) 内にある「デート DV 防止全国マップ」の掲載団体 120 団体・機関（2019 年 7 月現在）へメールで依頼すると同時に、全国の団体・機関約 100 カ所へ電話での協力依頼を行ったところ、79 カ所（個人も含む）から有効回答を得られた。回答者の所在地（都道府県）

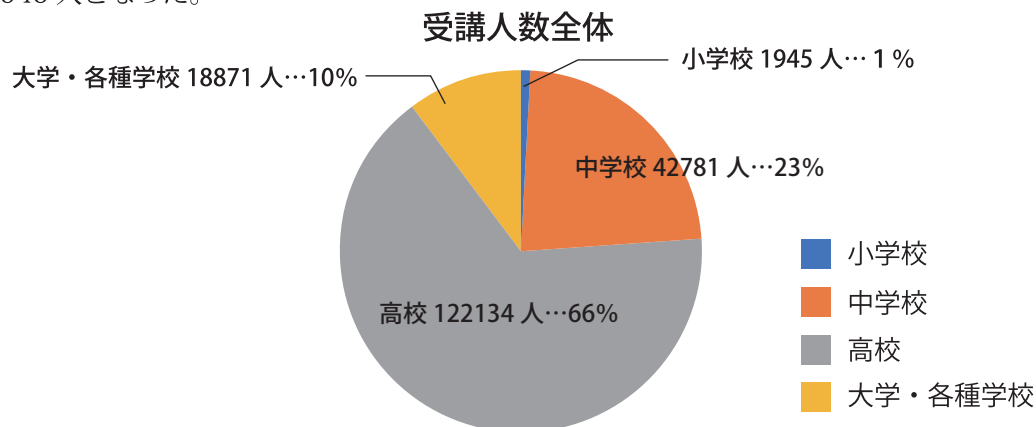
北海道 東北地方	北海道	6	近畿地方	滋賀県	1
	青森県	1		京都府	1
	岩手県	3		大阪府	6
	宮城県	1		兵庫県	1
	秋田県	2		奈良県	1
	山形県	2		和歌山県	1
	福島県	0		三重県	4
関東地方	茨城県	1	中国地方	鳥取県	1
	栃木県	0		島根県	1
	群馬県	1		岡山県	1
	埼玉県	1		広島県	1
	千葉県	2		山口県	2
	東京都	5	四国地方	徳島県	2
	神奈川県	3		香川県	0
中部地方	新潟県	3		愛媛県	0
	山梨県	1		高知県	1
	長野県	1	九州地方	福岡県	6
	富山県	3		佐賀県	1
	石川県	0		長崎県	2
	福井県	0		熊本県	1
	岐阜県	1		大分県	1
	静岡県	3		宮崎県	2
	愛知県	1		鹿児島県	1
				沖縄県	0

2. 調査結果

①受講人数

回答のあった79団体が、2018年4月から2019年3月までに実施したデートDV予防（防止）教育を受講した児童・生徒・学生は185,731人であった。

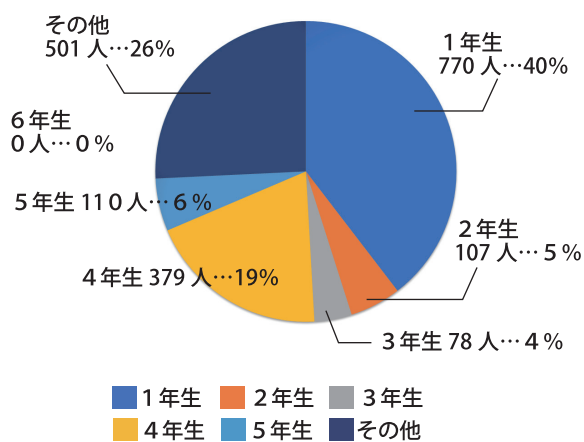
学校種別では、高校が一番多く122,134人、次いで中学校が42,781人、大学・各種学校が18,871人、小学校が1,945人となった。



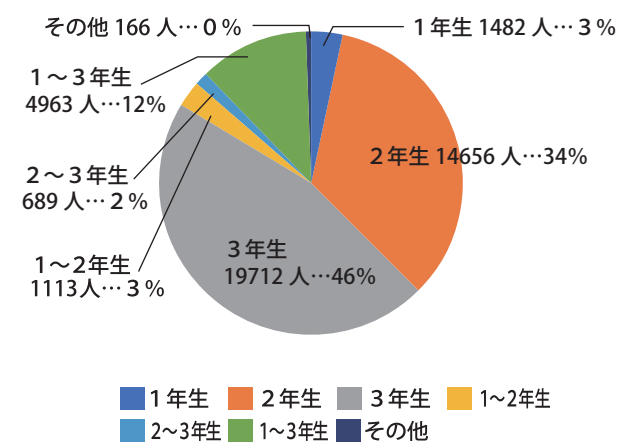
学年別の受講人数を学校種別ごとにまとめると以下のようになった。

受講人数が一番多かったのは、小学校では1年生770人、中学校では3年生20,708人、高校では1～3年生（全学年合同）45,336人、大学・各種学校では1年生10,813人であった。

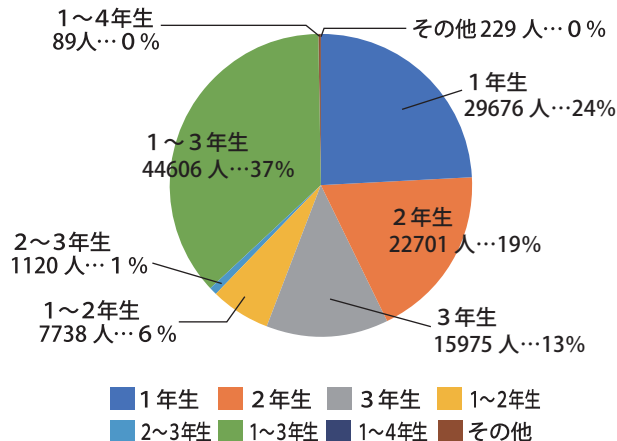
小学校学年別受講人数 n=1945 人



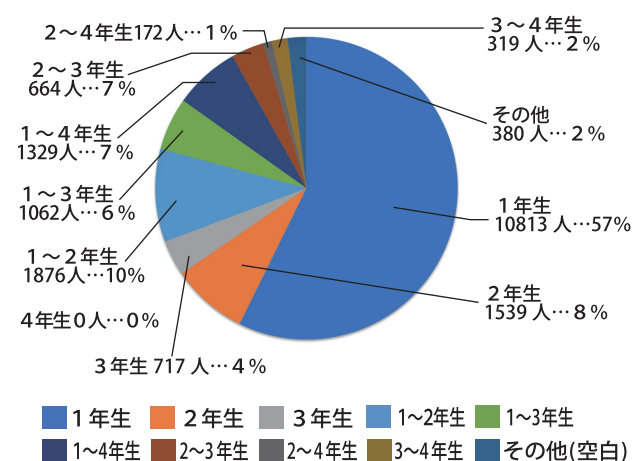
中学校学年別受講人数 n=42781 人



高校学年別受講人数 n=122134 人



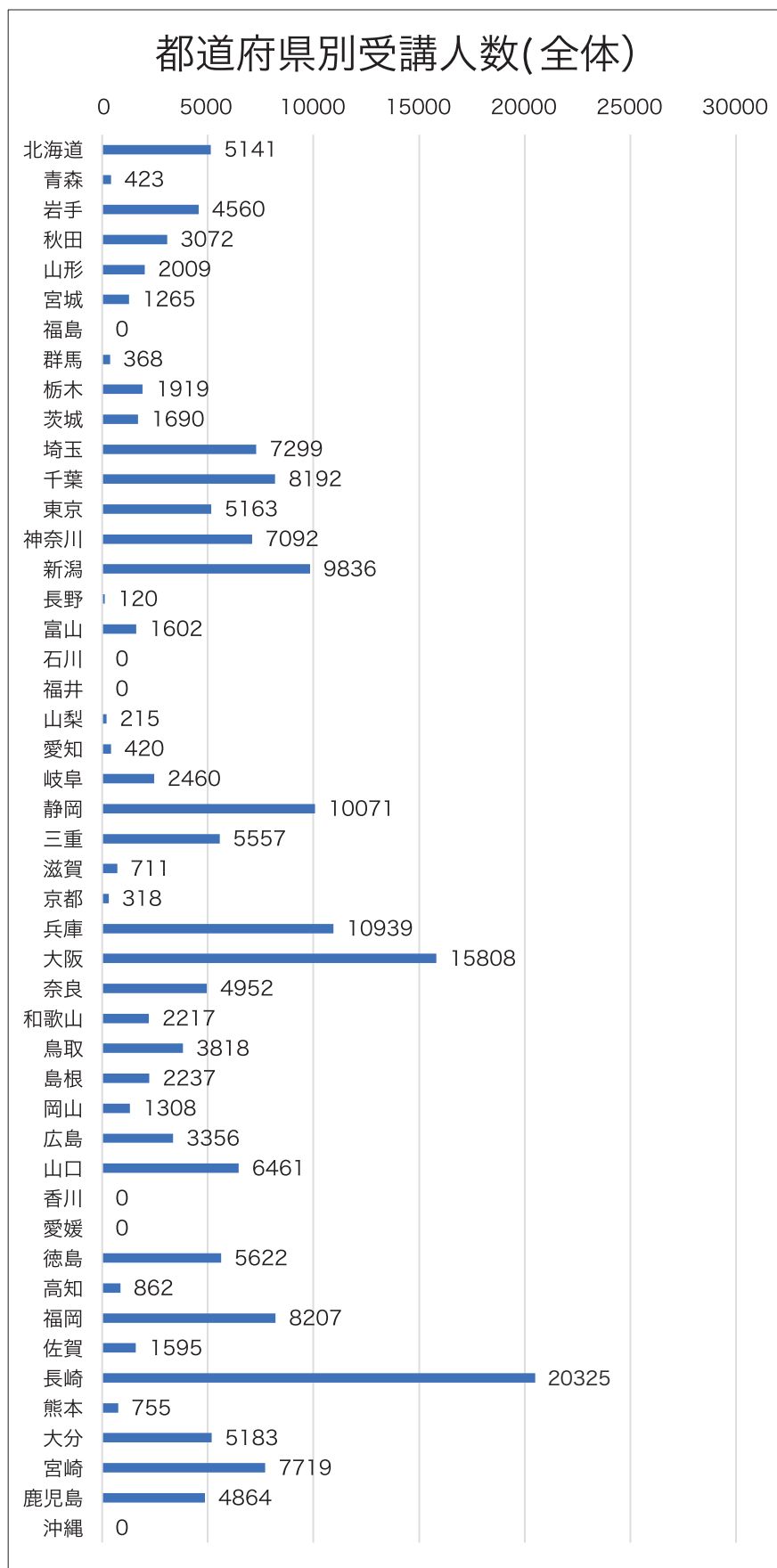
大学・各種学校学年別受講人数 n=18871 人



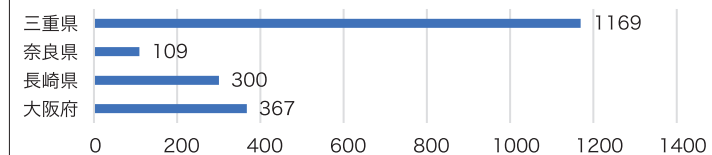
〈都道府県別受講人数〉

都道府県別の受講人数を学校種別ごとにまとめたところ、以下のようになった。

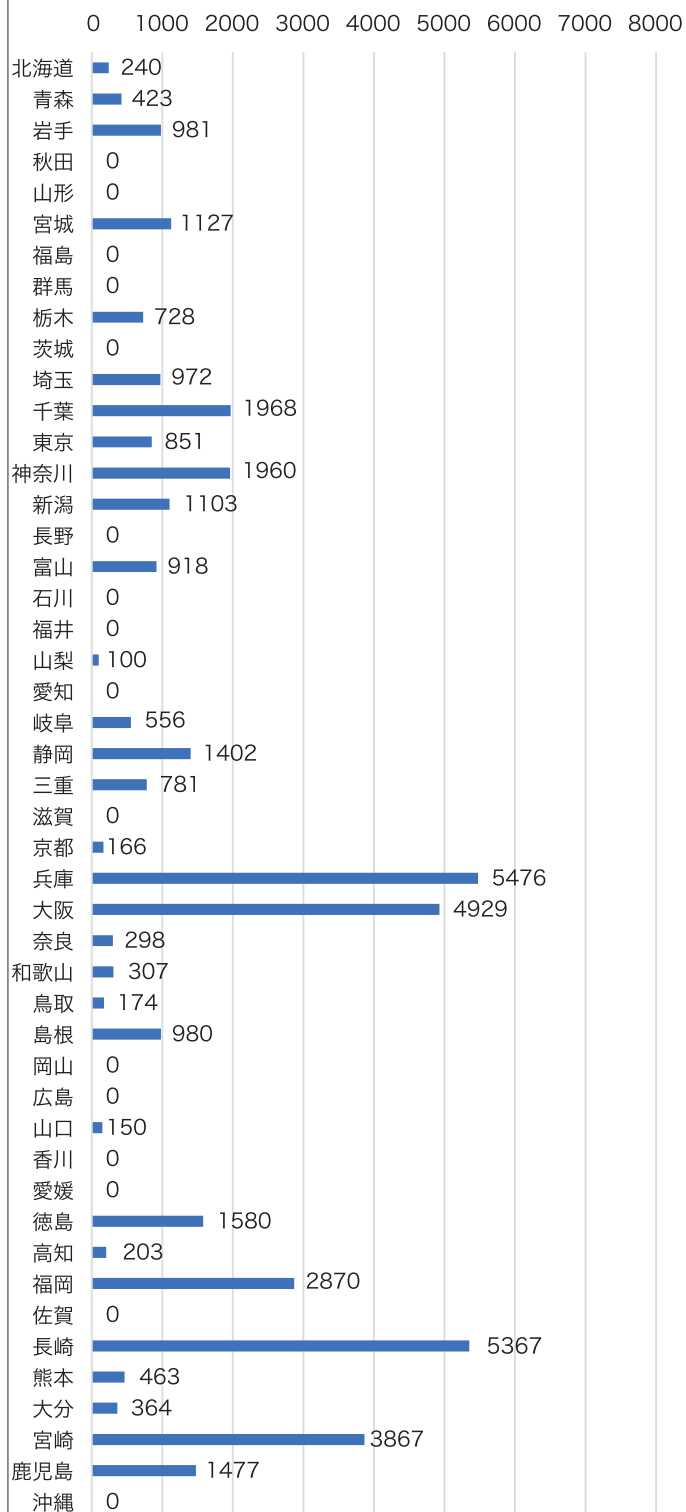
受講人数が一番多かった都道府県は、小学校は三重県、中学校・高校は長崎県、大学・各種学校は大阪府であった。



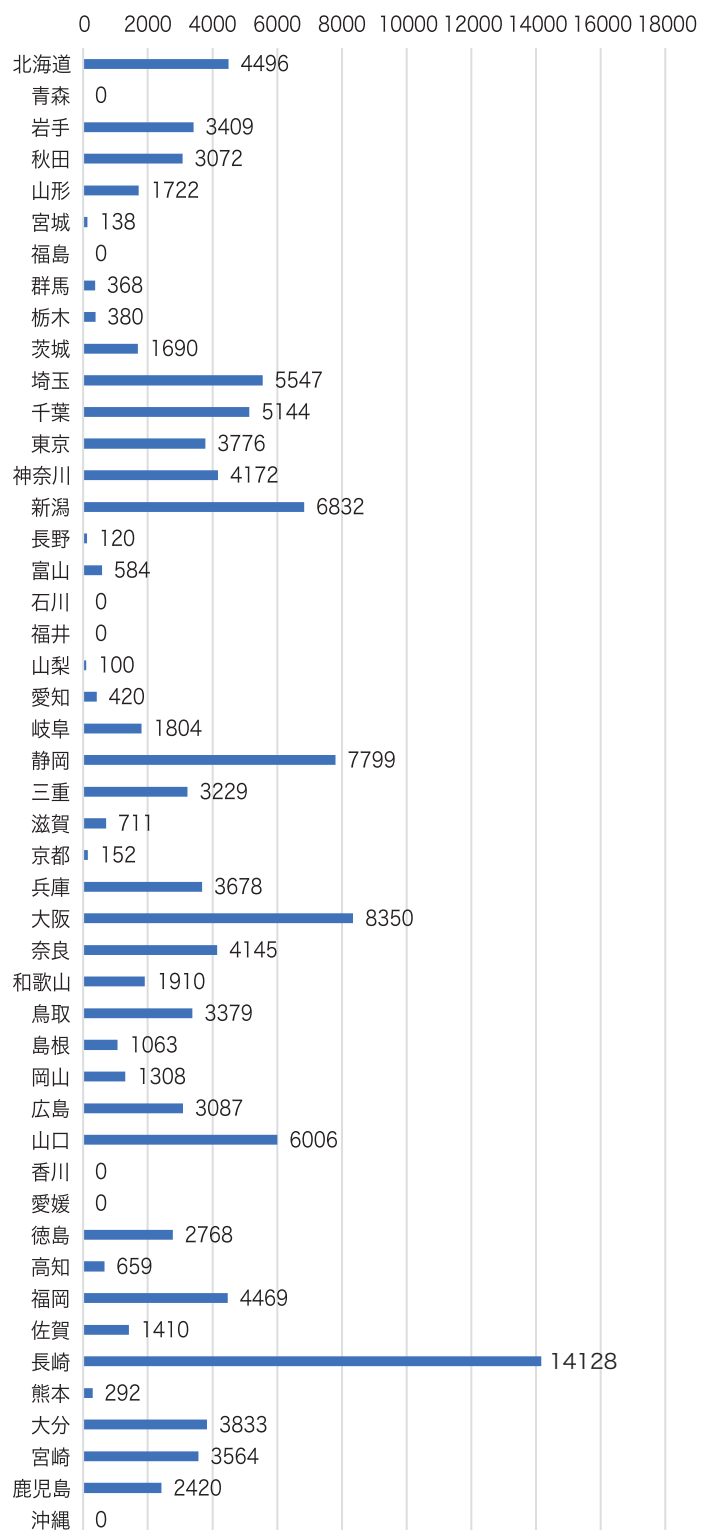
小学校 都道府県別受講人数



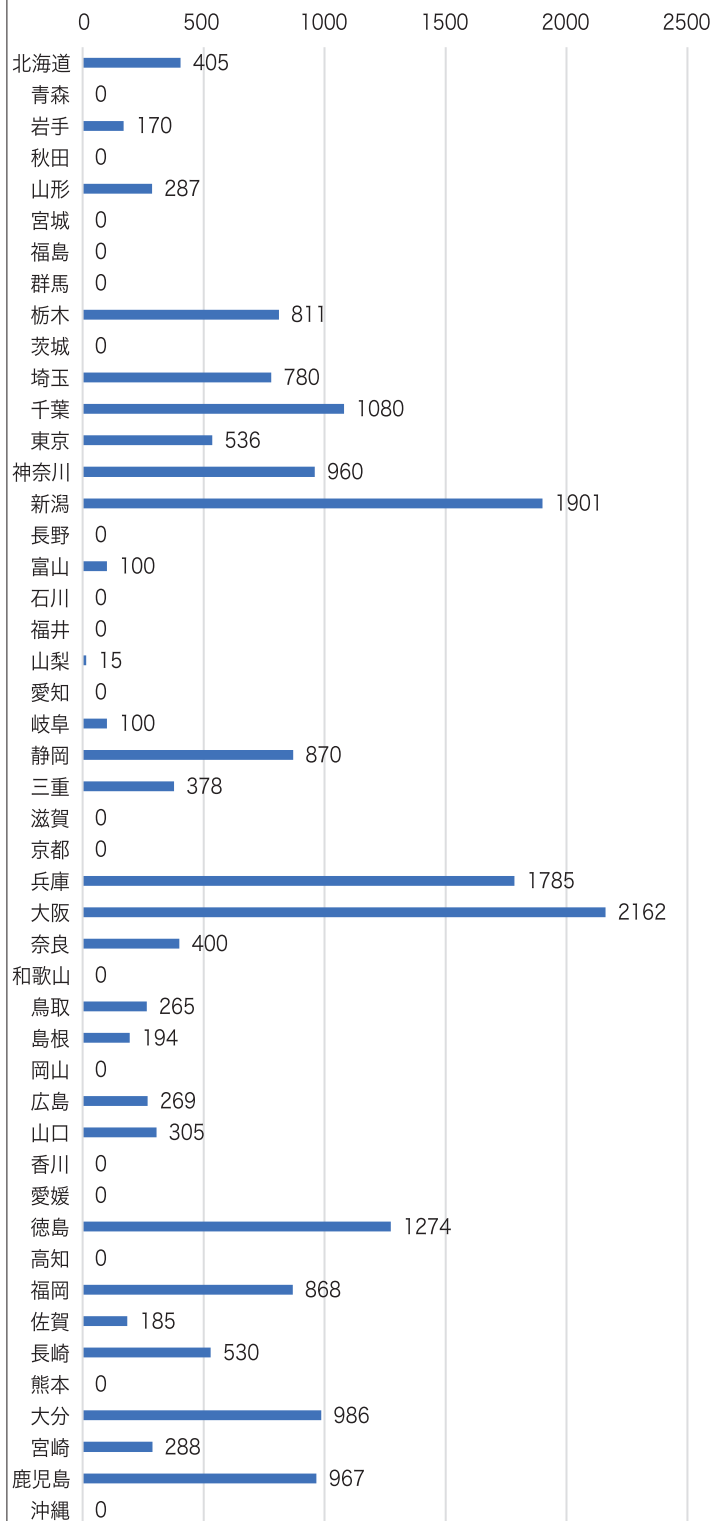
中学校 都道府県別受講人数



高校 都道府県別受講人数



大学・各種学校 都道府県別受講人数



〈市町村別〉

市町村別の受講人数を学校種別ごとにまとめたところ、以下のようになった。

小学校

実施場所	受講人数	市町村
大阪府	367	枚方市337 四條畷市30
長崎県	300	平戸市300
奈良県	109	北葛城郡109
三重県	1169	四日市市1127 志摩市42
総計	1945	

中学校

実施場所	実施人数	市町村
北海道	240	札幌市240
青森	423	記載なし
岩手	981	盛岡市330 二戸市172
秋田	0	
山形	0	
宮城	1127	大崎市1127
福島	0	
群馬	0	
栃木	728	宇都宮市728
茨城	0	
埼玉	972	記載なし382 杉戸町390 戸田市200
千葉	1968	市川市60 柏市808 鎌ヶ谷1100
東京	851	調布市236 目黒区265 北区350
神奈川	1960	横須賀市105 横浜市
新潟	1103	長岡市176 三条市825
長野	0	
富山	918	南砺市125 砺波市449 高岡市344
石川	0	
福井	0	
山梨	100	甲斐市100
愛知	0	
岐阜	556	
静岡	1402	藤枝市252 富士宮市
三重	781	鈴鹿市80 四日市市547 伊賀市154
滋賀	0	
京都	166	記載なし
兵庫	5476	記載なし

大阪	4929	吹田市1965 堺市130 枚方市1302 能勢町190 貝塚市52 河内長野市160 大阪市500 摂津市462 記載なし168
奈良	298	生駒市200 大和郡山市33 生駒郡安堵町65
和歌山	307	田辺市307
鳥取	174	鳥取市105 米子市69
島根	980	出雲市980
岡山	0	
広島	0	
山口	150	岩国市150
香川	0	
愛媛	0	
徳島	1580	三好市152 吉野川市434 板野町104 阿波市152 徳島市338 小松島市296 板野郡104
高知	203	南国市203
福岡	2870	福智町194 荻田町270 筑紫野市691 糟屋郡259 うきは市125 行橋市262 久留米市1069
佐賀	0	
長崎	5367	長崎市1927 五島市150 壱岐市264 諫早市1488 雲仙市192 佐世保市96 長与町390 大村市860
熊本	463	八代市463
大分	364	別府市180 大分市184
宮崎	3867	日南市180 高鍋町168 西都市159 宮崎市3230 えびの市130
鹿児島	1477	鹿児島市1477
沖縄	0	
総計	44750	

高校

実施場所	受講人数	市町村
北海道	4496	札幌市1010 江別市350 標津郡260 帯広市1955 室蘭市150 中川郡60 旭川市271 芽室町377 壮瞥町63
青森	0	
岩手	3409	花巻市1116 二戸市163 大船渡市195 盛岡市1030 八幡平市66 久慈市376 釜石市36 洋野町57 雫石町40 紫波町180 葛巻町150
秋田	3072	鹿角市181 男鹿市163 潟上市350 秋田市478 由利本荘市257 能代市13 大仙市366 横手市637 湯沢市465 雄勝郡60 にかほ市102
山形	1722	鶴岡市778 山形市435 酒田市133 真室川町20 大江町91 寒河江市103 庄内町78 尾花沢市84
宮城	138	石巻市138
福島	0	
群馬	368	記載無し
栃木	380	宇都宮市380
茨城	1690	結城市606 桜川市144 つくばみらい市240 古河市700
埼玉	5547	記載無し197 桶川市200 蕨市400 幸手市300 秩父市450 本庄市350 さいたま市800 岩槻市600 川越市950 吉川市500 川口市800
千葉	5144	松戸市1175 成田市326 千葉市1080 市川市520 浦安市500 記載無し1543
東京	3776	大田区230 足立区866 台東区679 荒川区579 墨田区276 港区196 日野市200 葛飾区300 東村山市300 北区150

神奈川	4172	横浜市3077 川崎市313 相模原市70 綾瀬市320 小田原市350 大和市42
新潟	6832	長岡市932 村上市1095 上越市517 新潟市1437 佐渡市322 柏崎市378 加茂市1255 新発田市300 三条市247 出雲崎町39 魚沼市310
長野	120	松本市120
富山	584	黒部市40 南砺市108 滑川市118 射水市154 富山市20 高岡市19 小矢部市24 朝日町101
石川	0	
福井	0	
山梨	100	身延町100
愛知	420	豊橋市420
岐阜	1804	記載無し
静岡	7799	三島市1410 下田市100 藤枝市50 富士宮市1430 裾野市358 富士市715 沼津市702 南伊豆町99 川根本町138 浜松市70 掛川市413 伊東市368 静岡市1117 磐田市244 島田市585
三重	3229	津市644 桑名市359 四日市市1165 松阪市529 鳥羽市155 鈴鹿市45 名張市332
滋賀	711	甲賀市239 近江八幡市36 彦根市86 記載無し350
京都	152	記載無し
兵庫	3678	記載無し
大阪	8350	堺市862 吹田市1475 高槻市1000 河内長野市 787 羽曳野市236 大阪市449 茨木市15 和泉市40 東大阪市262 交野市284 記載無し2940
奈良	4145	奈良市1641 天理市431 宇陀市436 橿原市672 五條市265 大和郡山市17

奈良		生駒郡199
和歌山	1910	和歌山市730 紀美野町170 有田川町370 田辺市640
鳥取	3379	鳥取市1174 八頭郡267 倉 吉市397 東伯郡200 米子 市848 日野郡144 境港市 349
島根	1063	出雲市1063
岡山	1308	岡山市・倉敷市518 津山 市・岡山市440 勝央町350
広島	3087	福山市1301 広島市520 廿日市市800 尾道市466
山口	6006	下関市699 防府市430 柳井市555 山口市449 光市875 周防大島町128 山陽小野田市80 周南市201 岩国市1144 美祢市230 長門市155 下松市85 宇部市975
香川	0	
愛媛	0	
徳島	2768	阿南市204 阿波市494 徳島市1312 美馬郡168 板野郡164 勝浦町64 つるぎ町168 板野町164 小松島市30
高知	659	南国市305 高知市354
福岡	4469	北九州市2761 飯塚市59 宮若市95 田川市294 福岡市900 荻田町360
佐賀	1410	太良町173 伊万里市272 佐賀市609 大町町103 唐津市253
長崎	14128	長崎市5817 大村市1484 雲仙市70 松浦市112 平戸市101 諫早市2021 佐々町159 対馬市141 佐世保市1744 波佐見町 101 川棚町133 五島市32 南島原市212 上五島町107 壱岐市275 島原市702 長与町841 西海市 76

熊本	292	八代市292
大分	3833	竹田市13 臼杵市127 大分市1443 日田市238 日出町520 玖珠町360 宇佐市500 由布市98 豊後大野市420 豊後高田市114
宮崎	3564	宮崎市2029 えびの市90 都城市230 国富町115 三 股町860 門川町240
鹿児島	2420	鹿児島市2420
沖縄	0	
総計	124159	

大学・各種学校

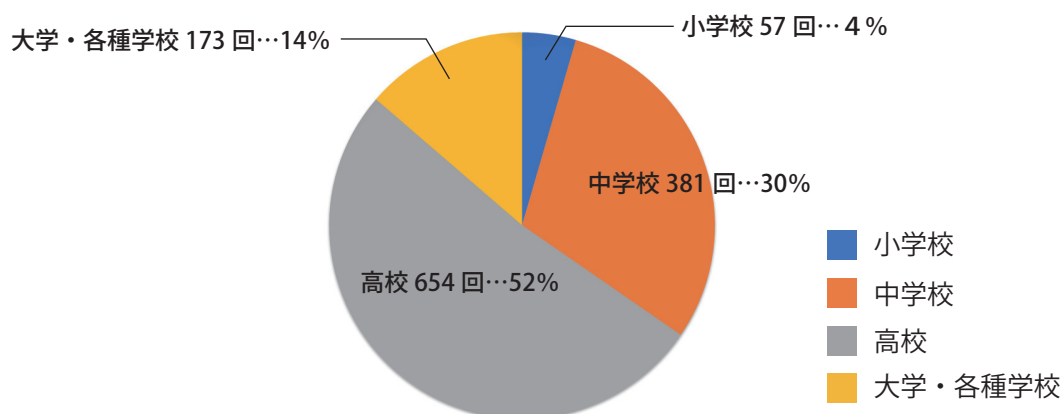
実施場所	受講人数	市町村
北海道	405	北広島市31 江別市32 旭川市22 札幌市320
青森	0	
岩手	170	盛岡市140 一関市30
秋田	0	
山形	287	酒田市33 山形市124 米沢市130
宮城	0	
福島	0	
群馬	0	
栃木	811	宇都宮市811
茨城	0	
埼玉	780	さいたま市580 所沢市200
千葉	1080	市川市500 浦安市80 成田市500
東京	536	八王子市37 荒川区90 小平市100 武蔵野市209 府中市100
神奈川	960	相模原市220 茅ヶ崎市40 鎌倉市280 横浜市300 平塚市120
新潟	1901	長岡市24 新潟市1887
長野	0	
富山	100	富山市100
石川	0	
福井	0	

山梨	15	南部町15
愛知	0	
岐阜	100	記載無し
静岡	870	袋井市180 島田市86 清水町260 静岡市140 沼津市204
三重	378	津市343 四日市市35
滋賀	0	
京都	0	
兵庫	1785	記載無し
大阪	2162	堺市203 大阪市200 吹田市1049 記載無し710
奈良	400	大和郡山市400
和歌山	0	
鳥取	265	倉吉市265
島根	194	出雲市194
岡山	0	
広島	269	福山市150 尾道市100 広島市19
山口	305	下関市128 周南市167 山口市10
香川	0	
愛媛	0	
徳島	1274	阿南市480 徳島市794
高知	0	
福岡	868	北九州市563 遠賀郡30 福岡市200 田川市75
佐賀	185	神崎市185
長崎	530	長崎市530
熊本	0	
大分	986	大分市506 豊後大野市280
宮崎	288	宮崎市288
鹿児島	967	鹿児島市967
沖縄	0	
総計	18871	

②実施回数

2018年4月から2019年3月までに、回答のあった79団体が実施したデートDV予防（防止）教育の総数は1,265回であった学校種別では、高校が一番多く654回、次いで中学校が381回、大学・各種学校が173回、小学校が57回となった。

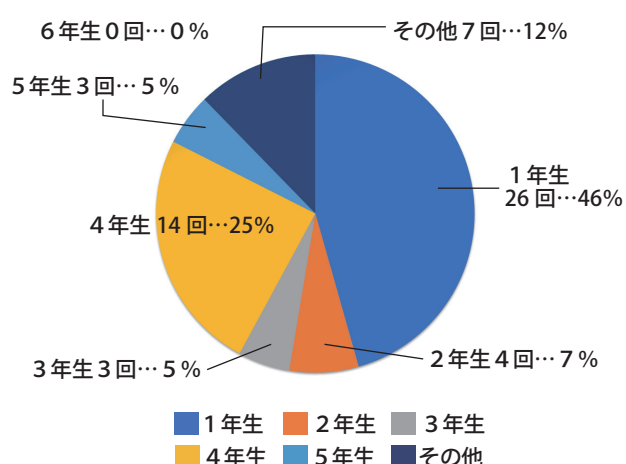
実施回数全体 n=1265



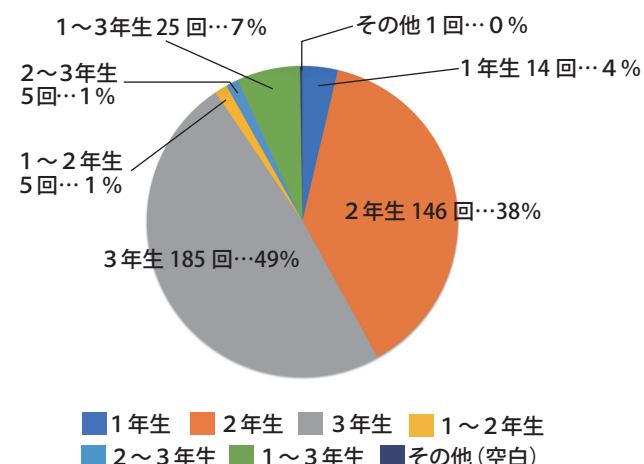
学年別の受講回数を学校種別ごとにまとめると以下のようになった。

実施回数が一番多かったのは、小学校では1年生26回、中学校では3年生146回、高校では1年生201回、大学・各種学校では1年生88回であった。

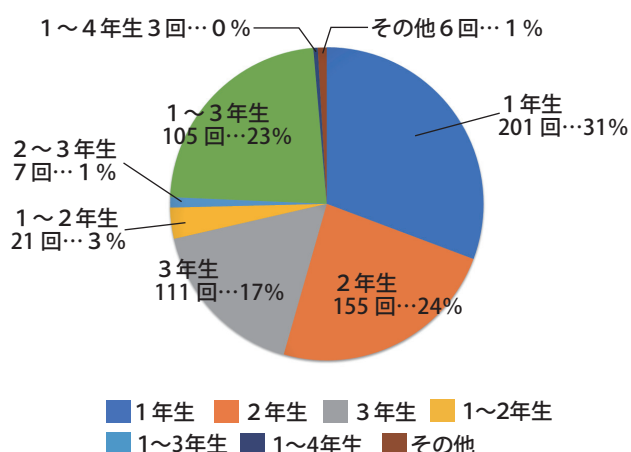
小学校実施回数 n=57



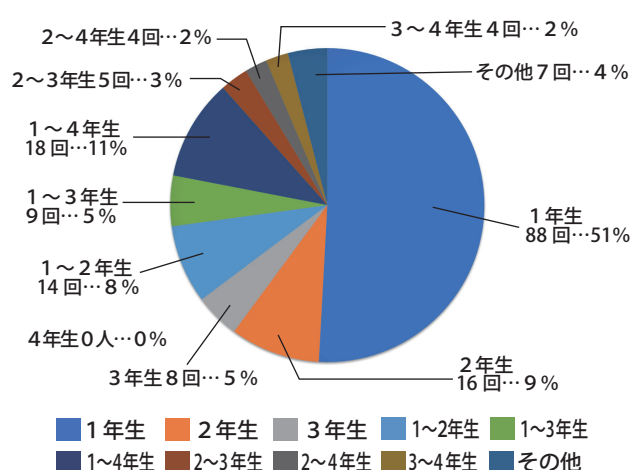
中学校実施回数 n=381



高校実施回数 n=654

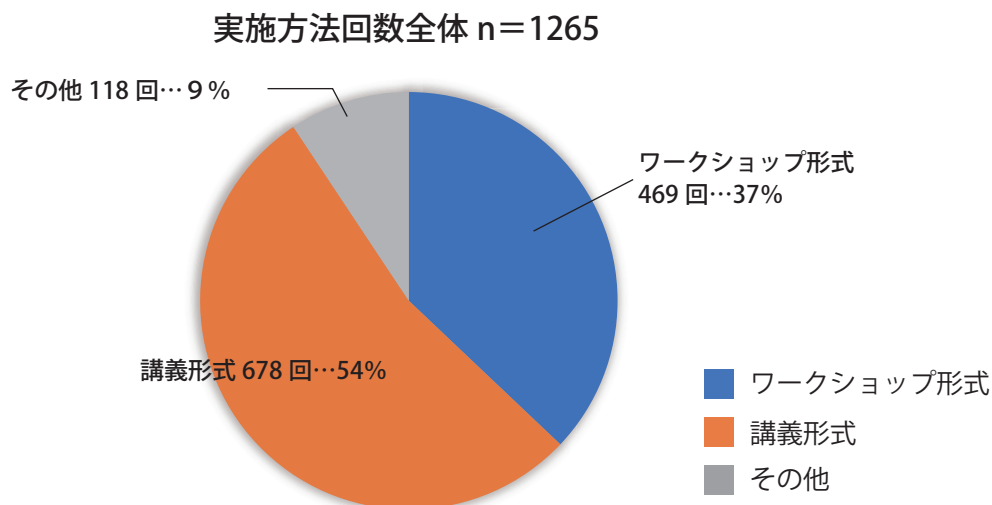


大学・各種学校学実施回数 n=173

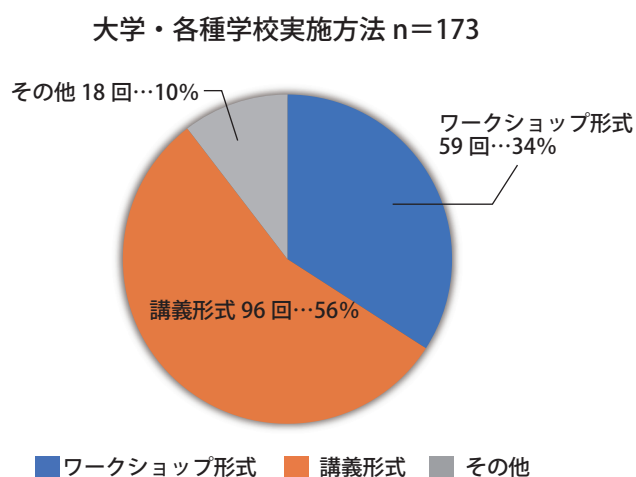
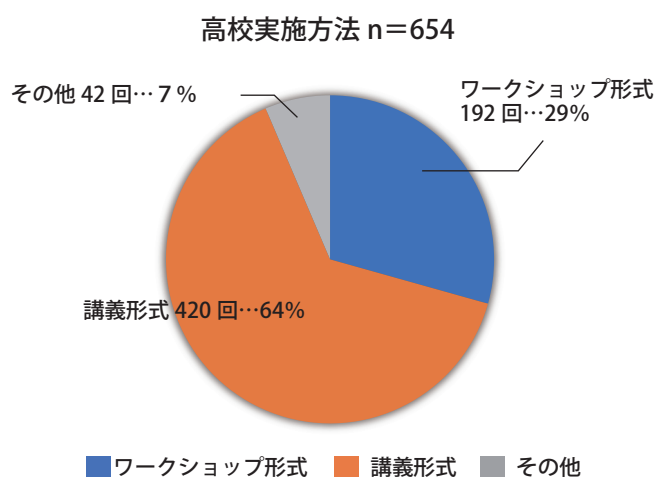
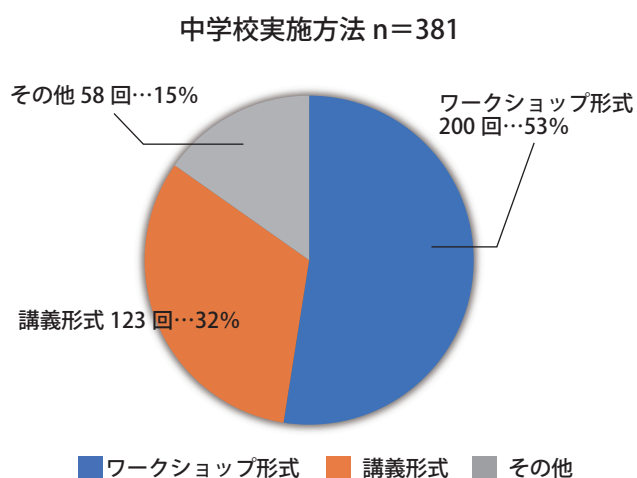
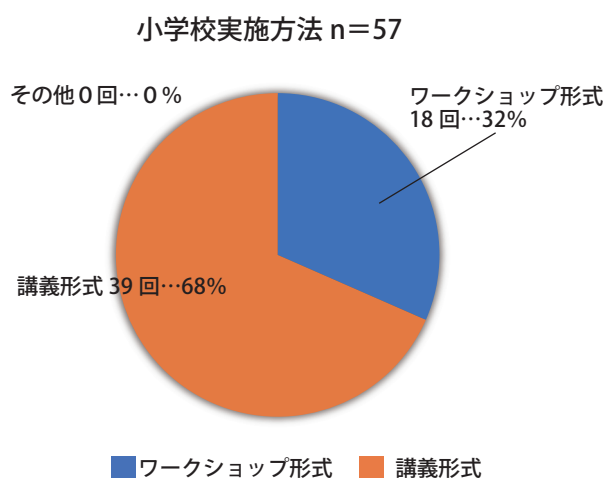


③実施方法

デートDV予防教育の実施方法を、ワークショップ形式・講義形式・学校単位・その他としたところ、講義形式が一番多く54%、次いでワークショップ形式37%、その他9%であった。



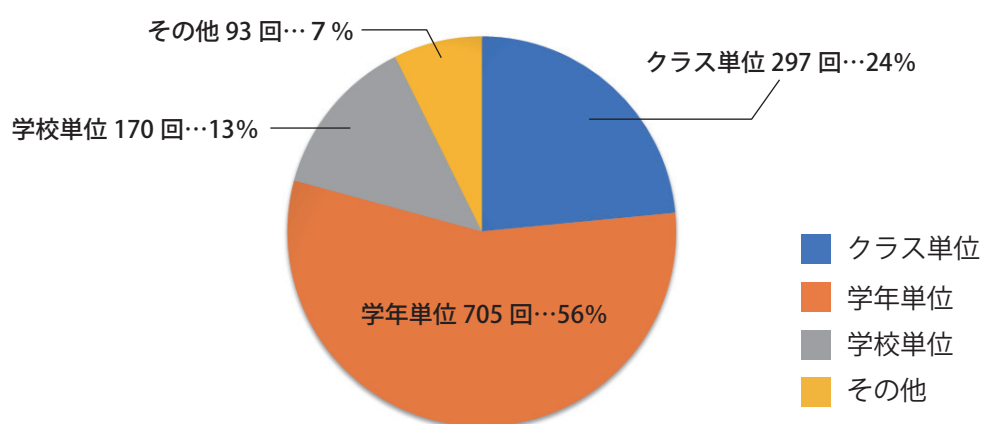
学校種別ごとにまとめると以下のようになった。一番多かったのは小学校が講義形式68%、中学校がワークショップ形式53%、高校が講義形式64%、大学・各種学校が講義形式56%であった。



④実施単位

デートDV予防教育の実施単位を、クラス単位・学年単位・学校単位・その他としたところ、学年単位が一番多く56%、次いでクラス単位24%、学校単位13%、その他7%となった。

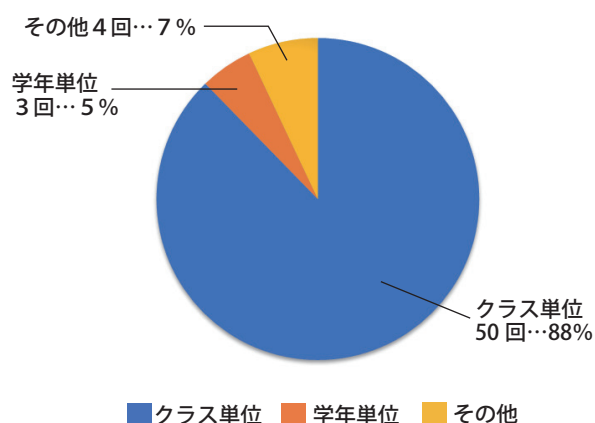
実施単位別回数全体 n=1265



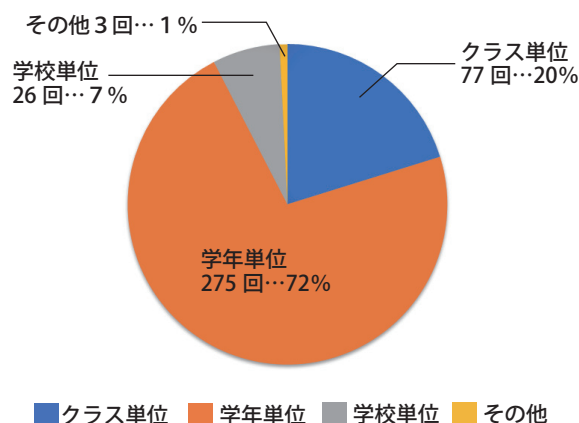
学校種別ごとの実施単位については以下ようになった。

一番多かったのは小学校がクラス単位88%、中学校が学年単位72%、高校が学年単位54%、大学・各種学校が学年単位41%であった。

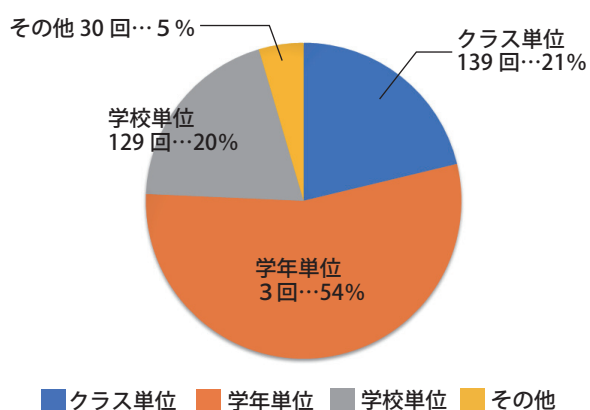
小学校回数 n=57



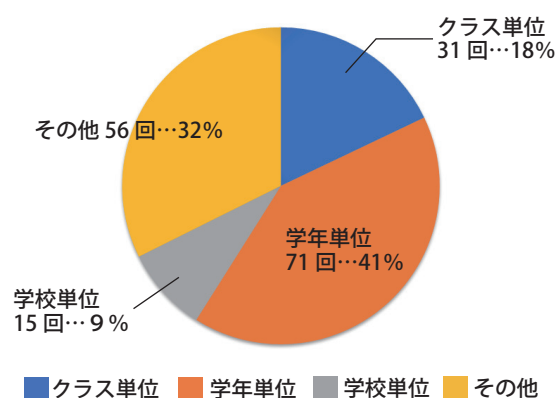
中学校回数 n=381



高校回数 n=654

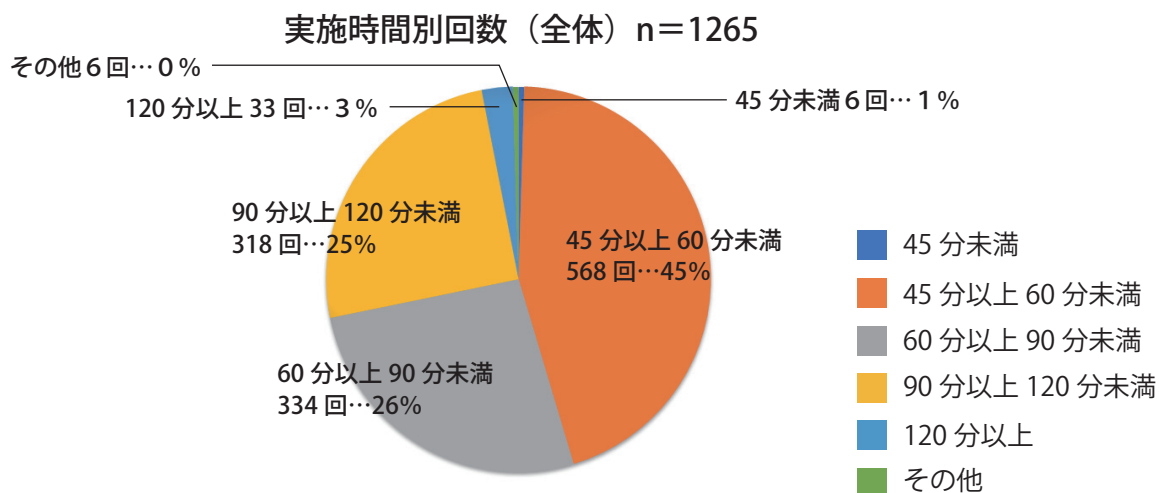


大学・各種学校回数 n=173



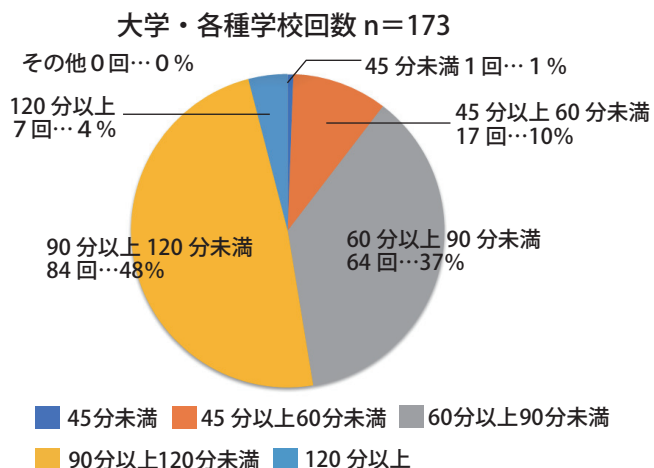
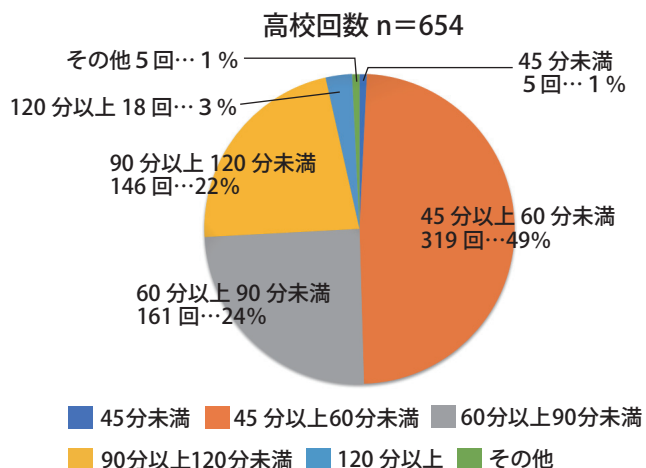
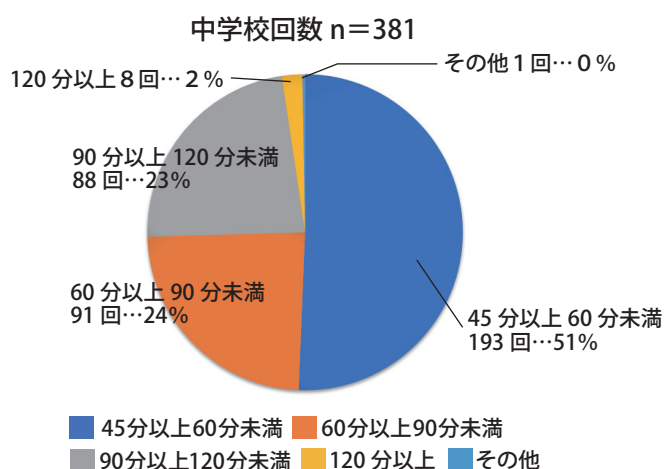
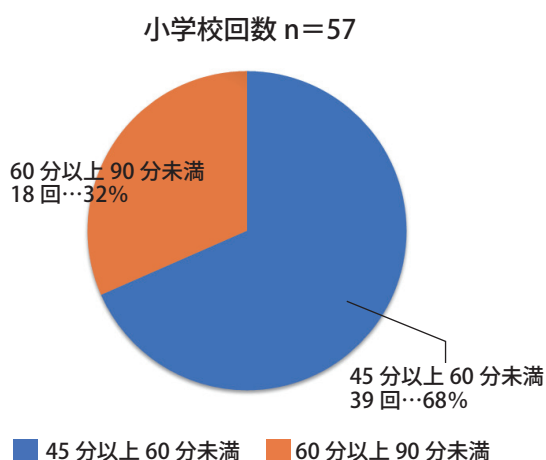
⑤実施時間

1回あたりのデートDV予防教育の時間を45分以上60分未満、60分以上90分未満、90分以上120分未満、120分以上、その他としたところ、45分以上60分未満が一番多く45%、次いで90分以上120分未満26%、90分以上120分未満25%、120分以上3%、その他となった。



学校種別ごと実施時間については以下ようになった。

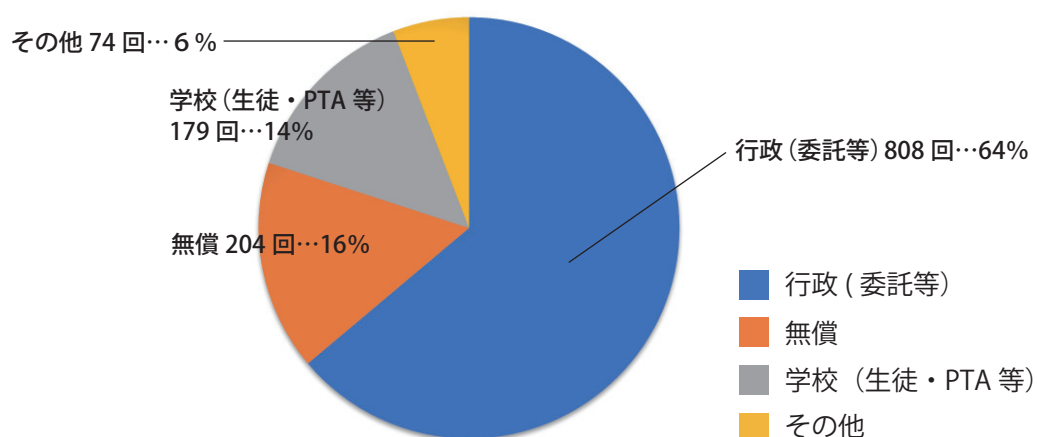
一番多かったのは小学校が45分以上60分未満68%、中学校が45分以上60分未満51%、高校が学年単位45分以上60分未満49%、大学・各種学校が90分以上120分未満48%であった。



⑥費用負担

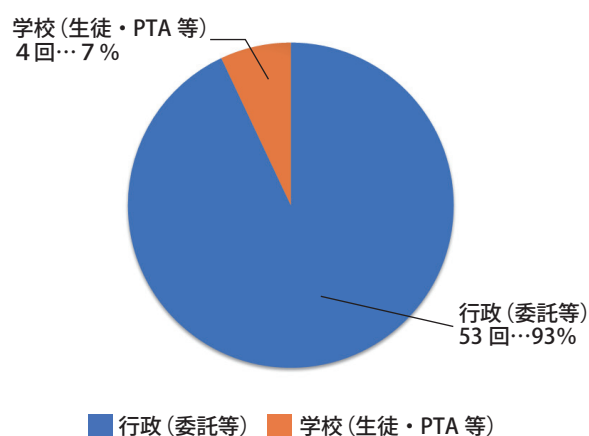
デートDV予防教育の費用負担を、行政（委託等）、無償、学校（生徒・PTA等）、その他と分けて聞いたところ、行政（委託等）が一番多く64%、次いで無償16%、学校（生徒・PTA等）14%、その他6%となった。

費用負担（全体） n=1265

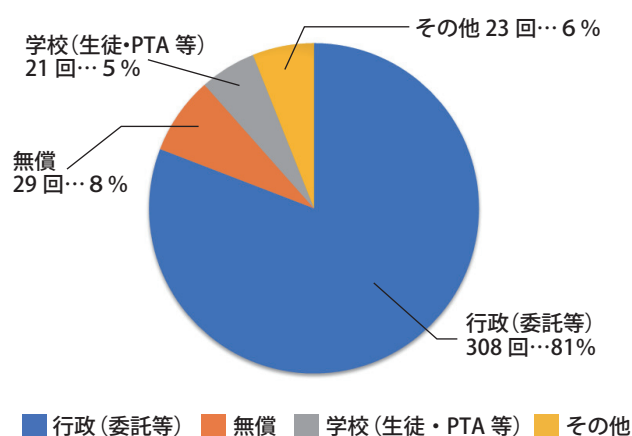


学校種別ごとの費用負担については、全ての学校種別で行政（委託等）が一番多く、小学校は93%、中学校が81%、高校が51%、大学・各種学校が65%であった。

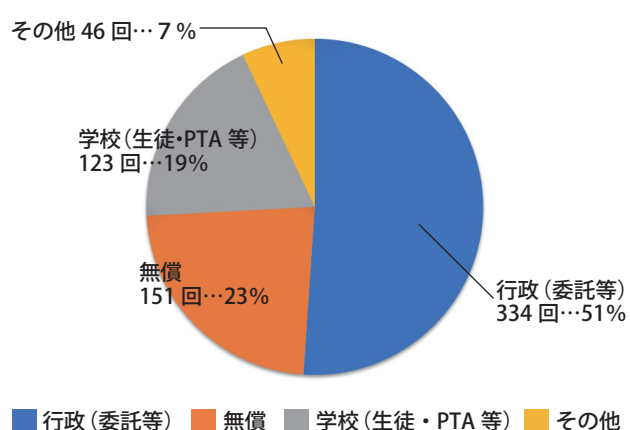
小学校回数 n=57



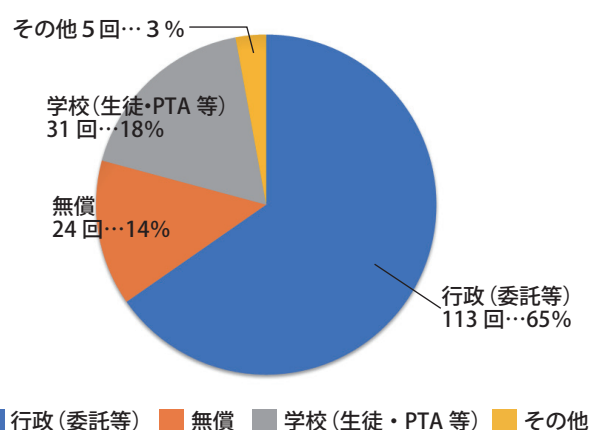
中学校回数 n=381



高校回数 n=654



大学・各種学校回数 n=173



⑦自由記述から

a. プログラムの内容で大切と考え、必ず伝えていることがら

公開「可」の団体のみの記述です

1	当市においては、人権擁護委員との連携によりデートDV出前講座を実施しておりますが、講座の内容は人権擁護委員に一任しています。
2	・デートDVは身近で起きていること ・交際している相手とのことで違和感を感じたら相談するとが大切なこと ・対等な関係について考える機会にする
3	交際しているときの二人は、上下ではなく対等の関係にあること。一人で物事を決めるのではなく、二人で決めること。暴力を容認してはいけないこと、暴力を選ばないこと。
4	・相談機関の紹介 ・デートDVは決して他人事ではなく、身近に起こり得る問題であるということ ・お互いを尊重し合う、違いを認め合う、対等な関係を気づくことの大切さ
5	・1人で抱え込まないで、相談すること。 ・相談を受けた場合は、否定しないで話を最後まで聞くこと。
6	デートDVは大人のDVと同じく、親密な関係性にある二人の間で起こる「力と支配」の暴力構造で、上下の関係性で起きる人権侵害である。身体的暴力だけでなく、相手を思い通りにコントロールしようとする全ての態度・行動を含む。この人権侵害につながる大きな要因は①社会と個人の双方にある固定化した性別役割と価値観（ジェンダー）、②こうしたジェンダーに基づく力の優位性を背景にした暴力を容認する意識が社会にある、からである。一方、上下関係がなく、個人として互いの違いと価値を認め合う「対等・尊重」のある関係性には暴力は起きない。このため、デートDVの暴力を未然に防止するためには、交際している当事者二人はもちろん、周りの友だち、そして教師をはじめ大人たちが、この社会の中にあるジェンダーに基づく偏見に気づき、自分らしい行動を意識的に選択し、大切な相手のその人らしさを尊重していくことが欠かせない。
7	「デートDV」について理解を深め、「デートDV」の被害者にも加害者にもならない自分になるために大切なことについて、ワークショップを交えて一緒に考える。①自分らしさに気づき、一人一人はみな違って当たり前であること。②ペアになってインタビューしあい、相手の話を丁寧に聴くことで、相手を大切にするという人権意識を深める。③思いやりのある言動について、カレシ・カノジョの会話劇を通して考える。自己中心的な言動が、暴力につながる恐れがあることに気づき、お互いに自分の気持ちを伝えることが大切であることを理解する。④暴力には身体的や言葉、メールによるものなど様々あることを伝え、暴力を受けたり、見聞きした時には、必ず誰かに相談してほしいと呼びかける。
8	暴力だけがDVではない！ということ。もし自分が疑問に思うことがあれば、両親、友達、先生に相談すること。そして、相談されたら、真剣に受け止めてあげること。
9	・デートDVのない恋愛をするために、対等な人間同士として、尊重しあえる関係を作ろう ・DVはとても身近な問題であり、ひと事だと思わないことが大切
10	講師は、DV防止に関する専門的な知識や学校への予防啓発・被害者支援の経験等を有する者に依頼しており、講座の内容は講師による。
11	いかなる理由があっても暴力は許されないこと。 ひとりで悩まず相談すること、など。
12	・DVって何だろう、暴力の種類、DVのサイクル、DVの構造、お互いを尊重するコミュニケーションについて ・被害者にも加害者にもならないために一人で悩まず誰かに相談しよう ・男女共同参画の視点から、男性も女性も被害に遭うことや、性的マイノリティのカップルの間にもデートDVの問題が起きていること、誰もがお互いを認め合いながら、関係を築いていくことについてを伝えている。
13	DVの要因としての「力と支配」「暴力容認」「ジェンダーバイアス」。なぜ男性が支配的となり、加害者の多くが男性なのか、ジェンダーバイアスに気づくことで、DVの仕組みが見えてくる。DVとは様々な暴力を手段として利用し、相手を支配する行為のこと。暴力の種類。社会にあふれている暴力容認意識、刷り込まれた性別役割分担意識・ジェンダーバイアスに気づき、それらを学び落とし、代わりに対等・平等・尊重を学ぶ。自分らしさ、自己決定権、性の自己決定も大切。暴力の責任は加害者にあり、被害者には全く責任はない。
14	要因 ・力と支配・暴力容認・ジェンダー 対策 ・自分らしさを大切に・尊重・自己決定権 その他 ・自分の人生を大切にしたい・他人ごととしてではなく、自分とも関わる身近な問題としてとらえること ・デートDVに気づいて学びなおせば、関係性は変えられること

15	・「知るということは大きな力になる」ということと、「被害者にも加害者にもならないでほしい」ということをキーワードにしている。 ・何故、DVのような関係になるのか、ジェンダーの視点から。 ・デートDVで悩んでいたら、一人で悩まないで身近な人に相談をしようと呼びかけている。
16	必ず伝えたいことは、[暴力の種類,暴力の容認][力と支配][ジェンダーバイアス]。「暴力は振るってはいけない」と誰もが分かっているが、正義や嫉や愛情のためなら行使してもよいという[暴力容認]や、無意識下にある[ジェンダー・バイアス]は非常に気づきにくい。しかしこうした社会認識こそがDVをする人の特権意識を支え、周囲の人々がDVを容認してしまうのだということを明らかにしなければ、根本的なDV防止教育にはならない。
17	デートDVについて学ぶことの必要性、暴力の種類、デートDVが起きる背景、暴力は加害者責任、相談機関、対等な関係をつくるには
18	東京三井護士会多摩支部の法教育プログラム「デートDV」を利用している。デートDVに加え、JKビジネスやリベンジポルノなどについてもプログラムに含まれるが、内容については実施する学校と個別に調整している。
19	・被害者にも加害者にもならないために、必要な知識を伝えている。 ・もし被害者になったとしても、安心して相談できる場所があることを伝えている。
20	最初にLGBTについて話す。統計から誰もが被害者にも加害者にもなる事と男性も被害者になることを伝える。身体的暴力だけではない。特にSNSなどの利用の注意点（リベンジポルノ、デジタルタトゥー・・・）。起きる背景や別れられない要因に女性差別（ジェンダー）の思い込みがあることを具体的に伝える。交際が始まった時点で気持ちを伝えてみて関係性を判断してみよう。自分も悪いからという自責感を外す。別れに同意はいらない等
21	全ての人の人権を大切にすること。（あなたも私も大切な存在であるということを伝えています。）もし自分または家族、友人が被害に遭っている時は必ず周りの人に相談するように。そのための連絡先等のリーフレット、相談先、電話番号等を伝えています。DVは犯罪以外のなにものでもないと言えないと社会がとらえなくてはならないことも伝えています。
22	尊重し合える人間関係 Iメッセージ（上手なコミュニケーション） 友人の力になること 暴力の責任は加害者にある レジリエンス 別れを決めるのは別れようと思う人
23	・暴力は絶対許されるものではない ・違いを認め合い互いを尊重する関係づくり ・多様性の大切さ
24	若い世代の男女が、現在及び将来にわたり、DVの加害者にも被害者にもならないよう、デートDVの知識や対処方法を学ぶとともに、男女が互いを大切にする生き方を学ぶためのセミナーとして実施しています。
25	・暴力の種類、束縛、SNSの危険 ・性的同意、性的自己決定権、人権
26	・デートDVとはいろいろな暴力で相手を自分の思い通りにしようとする事、その被害に遭わない、加害をしない互いを尊重する関係について考えてもらう。デートDVの予防として、対等な人間関係づくり・安心できる関係づくり、「I（アイ）メッセージ」を理解してもらう。 ・「暴力」、「支配・被支配」に気づくために、自分の「嫌だな」、「怖いな」と感じる気持ちを大切にすることを伝える。 ・デートDVの背景にある「暴力容認の社会」と「ジェンダーバイアス」について説明している。 ・DV、デートDVの実態調査の全国、〇〇県のデータを紹介している。 ・一人で悩まず、信頼できる友達や大人に話してみようと伝え、当団体にも相談できることを話す。 ・大人の暴力はあなたに責任はないこと、暴力のない家庭をつくることのできることを伝える。 ・多様なセクシュアリティ、そのカップル間でもデートDVが起きていることを伝える。
27	・被害者が一人で悩まないように、信頼できる大人に相談することや、専門の相談機関に相談する大切さを伝えている。 ・プログラムの最後には、地元相談機関を紹介している。 ・友達から相談を受けた時は、友達を傷つけること（二次被害）なく対応ができるように伝えている。
28	講座ではまず、暴力にどのようなものがあるか知ってもらうため、暴力の種類について具体的に説明する。そして暴力は相手を力で支配することにより起こるので、お互いに尊重し、対等な関係をつくることの大切さを伝える。対等な関係を作るには、自分の思いをしっかりと相手に伝え、自手の言い分もしっかり聞く「I am OK.You are OK.」の関係が重要であり、そのコミュニケーション方法としてアイメッセージを使うことの大切さを伝える。

29	デートDVの背景について 特にほかの暴力とは違い、ジェンダーに基づく力関係が根底にあることに気づいてもらうこと。 束縛は愛情に基づくものである程度は許されるという考え方への疑問。 暴力は一定の関係なら許されるとする考え方への疑問。
30	DVが起こる要因としてジェンダーバイアス、暴力の容認、力とコントロール、ゆがんだ恋愛観だということ。DV予防のためには知識は必須。対等な関係づくりのためにコミュニケーションについて触れるが、コミュニケーションの問題にすり替えないように正しく理解するよう何重にも気を配っている。DVに限らず、これから社会人となる学生へ自分を大切に、暴力を受けていい存在はいないという加害者・被害者を作らないメッセージである。すでにDVチックなことが起こっている人にもどうしたらいいかを伝え、対処策もセットにしている。LGBTやDV家庭で育った学生さんへの配慮も伝えている。
31	DVとケンカの違い、DVは身近で起きていること、相談しづらいこと、DVに明確な線引きはないこと、暴力の種類（性的暴力については詳しく）、力と支配、ジェンダーバイアス、暴力容認、ゆがんだ恋愛観、暴力による影響、なぜ逃げないのか、DVのサイクル、相談を受けたらどうするか、トラウマの後にある成長、1メッセージ
32	暴力の種類、DVの要因（力と支配、暴力容認、ジェンダー）、対等性、自己決定、性の自己決定、利用できる法律（ストーカー規制法、リベンジポルノ防止法）
33	SAY（性・生）の会、と名乗っている通り、「自分自身と切っても切れないセクシュアリティのことを、人権の視点で考え、人が生きていくうえで大切なことを、まじめに学校の中で、みんなで語り合おうよというスタンスです。」性を人権の視点で考えるワークショップ型のプログラムを展開する。性の多様性について・暴力にあっている人は誰一人いないこと・DVは暴力であること・DVの背景にあるもの・ジェンダーについて・みんなで生きやすい社会を作っていけること・一人で頑張らなくてもよい・助けてもらうことが大事・相談先（場所・人・メール先を具体的に）・生の学びは一人ひとりの権利であること
34	多様な性の子どもたちが自分のことを大切に思えるように。誰もが大切にされる社会になること。
35	子ども一人ひとりが幸せに生きる権利を持った主権者である。という考えに立ち、性別による固定的なジェンダーにとらわれず、将来の生き方を選び、自分や友だち、未来の恋人の「こころ」と「からだ」を大切にするために「ジェンダー」「暴力の連鎖の構造」に気づくプログラムです。参加型のワークショップの形にし、学校のクラス単位で開催することによって子どもたち、個々の意見に言い合い、クラスの人間関係づくりにも役立てるように実施しています。
36	（ウイメンズネットこうべのプログラムを使って授業をしています。）暴力はパワーとコントロールの関係であるから、対等な関係の中では暴力は起こらない。何より自分も相手も大切にすることが大切だと伝えています。またとくに若い世代に伝えたいこととして、ジェンダーにとらわれることなく「自分らしさ」を大切にすること。暴力を許さない社会を作っていくことが大事だと伝えています。
37	・デートDV（交際相手からの暴力）に限らず、あらゆる人間関係において暴力や暴力につながりかねないものに気づき、対等な人間関係を築くことが大切であること。 ・自尊心（自尊感情）を育むこと。 ・ひとりで悩まずに誰かに（複数に）相談してほしいこと（相談機関の紹介含む）。
38	1.デートDVについて、暴力の種類（身体的暴力 心理的暴力 性的暴力 経済的暴力 社会的暴力 デジタル暴力） 2. 嫉妬と束縛について 3. 暴力と支配について 4. 尊重すること 5. 心地よい関係について 6. 相談することの大切さ
39	DVが起こる要因として、「ジェンダーバイアス」「暴力容認」「力による支配」があるということ。とくに、DVには、ジェンダーバイアスが深く関わっており、ジェンダーバイアスを抜きにしてDV防止講座はできないと考える。コミュニケーションの取り方を学んだとしても上下関係に関わる価値観に気づかない限り根本からDV防止にはつながらない。講座では必ずジェンダーバイアスについて考える時間を設けている。また、受講生の中には自身の家庭と重なる場合がある。DVについて正しく知ること、で、「暴力を受けていい人など誰もいない」「親のDVや虐待は子どものせいではない」ということを伝えたり、孤立や自己否定を防いだりすることができると考えている。
40	・交際相手との関係は平等であること。どんな事があっても暴力をふるわない。暴力をふるわない生き方を選んでほしいということを伝える
41	①あせって恋愛しなくていいということ。②シングル単位・課題の分離の考え。 ③別れについての新しい考え。④性的なDVを身近に多様にとらえること。
42	＊暴力に敏感になること（暴力の種類）→自分を大切にすること →サイクルがある ＊信頼できる身近な人（友人など）に相談（する）→ 誰かに聞いて貰う＊相談を受けたら相談者（友人）の気持ちを受け止めてあげる→了解を得て信頼できる大人に相談をする→身体に不調がある様だったら診察をうける

	・DVの力と支配の構造とジェンダーバイアスは、デートDVの大事な骨組みだと考えている。DVのない社会を目指していく上で、社会的な構造の変化は必須。 ・性的自己決定権について、同意の考え方を映像を使いながら伝えている ・束縛については、アンケートなどになかなか納得がいけないという回答もあるが、工夫しながらしっかり伝えるようにしている。・相談する事の大切さ。一人で抱え込まないこと。 ・暴力は連鎖しない、させないこと（DV家庭に育った子へのメッセージ） ・安心、安全な関係について
43	デートDV予防研修（出前講座）のプログラム
44	①デートDVとは ②暴力の種類 ③なぜ起こるのか ④暴力を振るわれ続けるとどうなるか ⑤被害（暴力）を受けた時にどうすればよいか ⑥相談すること ⑦対等で尊重し合う関係 ⑧同意する
45	プログラムを実施するにあたって自分自身大切にしていることは、「どのような理由があっても暴力は許されない行為である」「どのような落ち度があっても被害を受けていい人は一人もいない」と、ゆるぎない意識を持ち続けることです。 そしてそんな中、必ず伝えたいと考えていることがあります。デートDVの密接な関係性の中では、一方が暴力という力を使って相手を支配している構図があること、社会には実は暴力を容認してしまう風潮があること、そして男らしさ女らしさの偏った価値観にとらわれすぎるとデートDVが起きやすいこと、などです。どんな関係性であっても暴力は許されないこと、2人の関係性は対等であり、自分も相手も大事な存在であることに気付いて欲しいと思っています。 男子でも女子でも、同性同士でも、誰でも被害者になりうることで、しかし誰にも被害者にも加害者にもなってほしくないこと、みんなに素敵なおとなになってほしいと伝えます。
46	・デートDVの被害者も加害者も作らないために、必要な知識を伝えること。 ・「デートDVは怖いから恋愛しない」ではなく、交際するのであれば「いい関係」を築いてほしいというメッセージが伝わる こと、「いい関係」とは何かを参加者に考えてもらうこと。 ・気をつけていても被害に遭う、加害をしてしまう場合があります、その際は一人で抱えず相談してほしいことを伝え相談窓口を周知する。
47	①デートDVのしくみ②ジェンダー（男らしさ女らしさ）③性行動と性暴力（安心・安全・同意）④男女間だけではないDV（LGBTの理解）⑤誰もが加害者・被害者にもなりうることで⑥暴力の背後にあるジェンダーと男女格差⑦対等な関係づくり（けんかとデートDVの違い、コミュニケーション等）⑧受援力についてと相談先の紹介
48	アウェアのプログラムを使用（DVD、ロールプレイ）90分を実施しています。「力と支配」「暴力容認」「ジェンダー・バイアス」に気づくことを伝えている。ジェンダーの話は必ずすることにしてます。ジェンダーの話は教員の方も自分の中にあることにハッと気づいてくれます。大学院のプログラムはレジリエンスのテキストを使用し「力と支配」「加害者」「暴力の種類」を伝えDV事例を話している。
49	本市では、「〇〇市DV対策基本計画」に基づき、デートDVへの理解促進と予防啓発のため、若年層（高校生・大学生等）を主な対象とした出前講演を実施している。デートDVの基礎的な知識にとどまらず、人権、コミュニケーションや実際に被害を受けたときのアドバイスなどの内容を盛り込んでいる。DVが心身に及ぼす影響や暴力の種類などのDVに関する正しい認識を啓発するとともに、DVの未然防止のために必要な内容を周知啓発している。
50	・デートDVを引き起こす要因に、ジェンダーに基づく意識と、暴力を容認する考えがあることを伝え、ジェンダー平等と一切の暴力を認めないということ。 ・対等な関係でないと感じたら、信頼できる大人に相談するということ
51	デートDVの言葉の意味、対等な関係性、暴力的な関係性、暴力の種類（身体的、精神的、性的、経済的、社会的）、尊重のあるコミュニケーション、相談することの大切さ、相談先の紹介、加害をなくせば被害はなくなるので、暴力についての理解を深め、気づきを高めることを強調しています。
52	デートDVの意味・種類・件数、地域の中絶件数、性感染症、被害と加害、事例、男らしさ女らしさ、権力と支配の車輪、サイクル理論、対等な関係、相談先、アイメッセージ、ネットを通じた犯罪
53	デートDV被害実数、チェックシート、視聴覚教材、暴力の種類（特に性暴力とリプロ）、事例、LGBTとデートDV、ジェンダー視点、暴力の容認、力による支配の3要素、なぜ逃げられないか、けんかとDVのちがひ、相談を受けたら、自身が被害者だったら、加害者を知っていたら、相談窓口
54	暴力は気づきやすい暴力と気づきにくい暴力があり、自分や周りの人に向けられた暴力に気づくことの大切さ、嫌なことはNO！と言っていいし、一人で悩まずに信頼できる大人に相談することの大切さ、性に関わることは自分と相手の将来の夢、命に関わることで、暴力は自分が選んだ行為であり、やめたいと望めば暴力ではない他の行動を自分が選べるということ、人間はどんなに傷ついても必ず立ち直っていくということ、以上のことは必ず伝えています。

55	暴力神話について払拭すること、暴力は力と支配、暴力関係にならないためには対等な関係が大切、被害を受けた時に早く気づけるように、相談することの大切さ、暴力は自分で選んでいるもの、ジェンダーがデートDVの根底にあること、気持ちを言葉で伝えること、アイメッセージで話すこと
56	明文で規定されているわけではないが、中学生以上を対象に行っている講義形式（セミナー）では、下記の点は必ず入れるようにしている。・デートDVの内容・若いカップル間の、対等な立場で相手も自分も尊重できる関係のあり方
57	DVとは何かということに加え、「自分のことも相手のことも大切にし、お互いを尊重しあう関係を築くこと、男女間の交際に限らず、友達や周りの人との人間関係を築くことの大切さ」について伝えている。
58	誰もが平等に持っている大切な基本的人権を侵害するもの、それが暴力である。その暴力の一つがデートDV。どんな理由があっても暴力を受けていい人はいない。また、「デートDVを受けているかも？」と思った時に、「あなたは悪くない、あなたは独りぼっちではない、信頼できる人に相談しよう」と伝える。友達としてできることは、気持ちを一生懸命聴き「私は～思う」と私を主語にして伝えてほしいこと。最後に「あなたへのメッセージ」として・あなたが何をするかを自分で決めてよい・自分をちゃんと認めてもらってよい・あなたの感情を伝えてよい・自分の意見を伝えてよい・自分の気持ちを大切にしていよい・などお伝えして「あなたはあなたのままでよい。あたしはあたしのままでよい」ことを伝える。
59	DVは「ジェンダーに基づく暴力」であり、DVを防止するためにはジェンダーの視点のはいったプログラムが欠かせないと考えている。DVが起こる要因である、力関係や上下関係によって相手を支配してもいいという考え方や暴力を容認する考え方と共に、当たり前だと思っていることが実は性別によって偏りがあり、その性別による役割を押し付けたりすることで暴力につながりやすいことなど、ジェンダー・バイアスについて伝えることがとても大事である。ジェンダーやジェンダー・バイアスについては、学校や地域等で学ぶ機会はほとんどないため、子どもたちにとっては貴重な機会であると考えている。防止教育の中でしっかり伝えていく必要がある。
60	①暴力を認めない ②自分のことを大切にすること ③相手のことも大切にすること 「人と人との対等な関係」を構築することの大切さを伝え、「デートDV」を切り口に、・性的自己決定権 ・ジェンダー ・男女共同参画社会 ・尊重 ・I（アイ）メッセージ ・人権 ・LGBT ・いじめ などの項目でプログラムしている。
61	・ジェンダーバイアス ・あなたは大切な存在 ・恋愛をしなくてもいい ・あなたは悪くない ・相談していい ・自分を大切にしてい

b.プログラムの特徴や実施にあたり工夫していること

公開「可」の団体のみの記述です

1	当市においては、人権擁護委員との連携によりデートDV出前講座を実施しておりますが、講座の内容は人権擁護委員に一任しています。
2	基本のプログラムは、北海道シェルターネットワークに加盟している民間シェルターが共同で開発しました。
3	イラストがたくさん入ったパワーポイントを利用して分かりやすく、楽しい内容です。また、ロールプレイへの参加や、意見やコメントをメモ用紙に書いてもらうなど、自主的に参加し、自分の考えを表現しやすいように工夫しています。
4	〇〇のNPO法人ピーチハウスから派遣された、デートDV防止プログラムの訓練を受けた講師による講話や、教師を巻き込んだロールプレイを実施しています。事後アンケートからも生徒の理解度が高い様子がうかがえ、効果的なプログラムで開催できていると考えています。
5	・難しい言葉を使わない。
6	プログラムは①事前のホームルーム等を活用しての質問形式型学習②学生（生徒）対象講座③主催した担当教諭職員対象の補足説明会の3つで構成される。学生（生徒）対象講座では、一方的に講義形式で「教える」のではなく、動画・スライド視聴、ロールプレイ、グループワーク等を通して、受講者自らがジェンダーに基づく暴力に「気づき」、他者と「対等・尊重」のある関係を築くにはどうしたらいいかを「考え」、そして健康的な行動と関係性を「選択する」機会となるよう参加型で双方向性のやり取りを重視している。情報提供としては、若い世代に顕在化するSNSを通してのセク스팅やリベンジポルノ等消せない記録として残り続ける「デジタル暴力」への注意喚起をはじめ、LGBTQ+への配慮を含め常に身近に起きている最新の情報を取り入れるよう努めている。
7	主に中学生を対象にセミナーを実施しているので、できるだけわかりやすく伝えるために、パワー・ポイントを使用すると共に、生徒たちが主体的に参加し、体験できるように工夫している。具体的には、①セミナーに参加する生徒に、事前に「自分のことを書いてみようシート」に記入してもらう。②生徒を6～8人のグループに分け、その中で、2人ずつペアになり、インタビューしあう。③会話劇では、暴力的な悪い例を男女ペアの先生に演じてもらい、思いやりのある会話例を生徒に演じてもらう。④セミナー全体を通して、4～6人のスタッフ（会員）が参加し、メイン講師（1人）とサポート講師として、生徒全員に目配りし、楽しく参加できるように配慮している。
8	資料を見て説明するだけでなく、DVD等を視聴させ飽きさせないようにしている。
9	身近な事例を映像で紹介している。
10	出前講座の内容は、暴力の種類や、DVが心身に及ぼす影響などのDVに関する正しい認識を啓発するとともに、暴力にあった時の対処法や、相談を受けた時の対応、相談機関の情報提供等、DVの未然防止のために必要な内容を周知啓発している。
11	また、実施にあたっては、受講対象者に応じて、講演のみならずロールプレイやデモンストレーション等を用いるなど、若年層がDVを身近な問題として感じ、関心の喚起につながる内容とするよう努めている。さらに、アンケートを実施し、検証を行っている。
12	簡単なロールプレイ等へ先生の参加を取り入れている。
13	・主催側に講義内で特に伝えたい部分などの要望をよく聞き、配分等を決定している。要望に応じてロールプレイを実施したり、チェックシートで行動の振り返りをしたり、DVDを放映したりと、対象や人数にあわせた工夫をしている。
14	・つらいことや苦しいことがあった時は、ひとりで抱えないで相談してほしいというメッセージを伝えている。相談に対するハードルを下げることを期待して、相談室のチラシや、デートDVミニカードを配布している。
	・ 刷り込まれている固定的性別役割分担意識、ジェンダーバイアスに気づくためのロールプレイ。男らしさ、女らしさではなく自分らしさ。暴力の種類による力と支配を分かりやすく説明。
	・ ロールプレイは高校生は基本生徒にやらしてもらうが、中学生は先生にお願いしている。
	・ 途中で座席の近所の人と話す時間を取り、自分のこととして考える時間を持つ。
	・ そのとき、話題になっている話を少しでも入れる。事件、テレビ映画などの話題作。
	・ 事前に学校に打ち合わせに伺い、学校の状況にできる限りあわせる。（理解力にあわせる。またデートDV、LGBTの当事者がいるので、こういう配慮をして欲しいと、学校側から要望がでる場合もある）
	・ プログラムの特徴は視覚的（パワーポイント）・参加型です。パワーポイントを使ってクイズ形式でのデートDVQ&A。YES/NOカードを使って答えてもらいデートDVのことを理解してもらう。次にDVにならない良い関係をつくるヒントを、生徒さんが演じるロールプレイから学ぶ。生徒さんが演じるロールプレイは、より身近なものとして理解しやすい。そして、相談されたらどうしたらいいかもロールプレイを通して伝えている。誰もが相談される可能性があり、二次被害を防ぐためにも、また相談機関がある事も伝えている。

15	ぜひ伝えたい3項目は社会の支配構造に組み込まれていたり、性別役割として意識下に刷り込まれ、人間関係の中に複雑な影響を与えているものである。従って学校側との事前の打合わせは必ず丁寧に話し合い、生徒たちへのジェンダー・アンケートを実施して具体的な意見を集計、当日の解説の中で発表。ロールプレイ(カップル役)は生徒や教師が参加し、全員が参加するグループワーク(5,6人の班編成)で感想や意見を述べ合うことで当事者としての体験的な気づきから学んでいくことが出来るように配慮して進行している。
16	その都度先方の学校の状況を聞き、必要な内容を盛り込むようにして、内容構成を変えている。
17	日時や形態は学校側と協議し、要望に沿って実施している。学校と講師を務める弁護士を含めた3者でも事前に打ち合わせを行い、各校の実情に応じた内容での講座としている。
18	講義だけではなく、DVDの上映や「会話の実演(恋人間での会話)」を入れるなどし興味を持ってもらえるようにしている。
19	50分間を生徒が関心を持って聞かれるように、アニメや被害者の話を入れる。単に「ダメだ」とかセックスを禁じるような話は避けている。交際することが怖くならないように、誰かを好きになることは素敵なことだと伝える。対等で平等な関係を学ぶ。
20	学校での出前講座では学年に添ったプログラムを工夫しています。(小学生ではゲームや遊び道具を取り入れながら、ジェンダーについて話し合ってもらい。いまの気持ちを言ってもらい、それぞれ違いはあるが、違っていてもいいのだ。また中学、高校生には日常会話を通して、そのなかに相手を傷つけることば、他者を受け入れることばがあることに気付いてもらう等の工夫をしています。)
21	教員による寸劇を交え重い内容を楽しく学べる 生徒の意見を聞きながら参加型にする努力をしている
22	パワーポイントを使い、DVD視聴、寸劇、グループワークなど、実施先の規模や要望に柔軟に対応している。
23	講師又は学生によるロールプレイ、ワークシートの活用などを行っています。
24	・ 講座の合間に2回デートDVを再現する短い劇を入れる。そのことにより、力の差があり、支配とコントロールの関係について考えてもらう機会とする。 ・ 事前に電話で担当の先生等との打ち合わせを行い、講座内容の説明や学校からの要望を確認しプログラムを考える。
25	・ 2名の講師で担当し、参加型のワークショップ形式で実施している。 ・ チェックシートやワークシートを用いる。 ・ 先生や生徒によるロールプレイでデートDVを身近にある問題と感じてもらう。また、対等な関係バージョンのロールプレイでは「I(アイ)メッセージ」を実際に使って伝えることを体験し、学ぶ。 ・ その時々で社会で問題になっていること(LGBT、デートレイプドラッグ、性的同意など)を盛り込む。 ・ 初めての学校や特に中学校で実施する場合、また学校の希望がある場合は、事前打ち合わせを行い、プログラムを説明したり、要望を聞いたりしている。 ・ 当団体の日々の相談から、具体的な事例を話したり、アドバイスを伝えたりしている。 ・ 実際にデートDVに悩んでいる生徒、先生の相談に応じることがある。
26	・ 学校や依頼先から具体的な要望があれば、それに応じた内容をプログラムに追加して伝えている。 (SNSでの注意事項、自己肯定感、コミュニケーション、デートレイプドラッグなど) ・ 教職員や保護者のプログラムは、ワークを取り入れ、対応の仕方やデートDVがさらにわかりやすいように伝えている。 ・ 中学、高校のセクシュアリティ講座依頼でも、必ずデートDV予防教育を組み込んでいる。
27	暴力の種類やなぜ暴力が起こるのかを学んだ後、アイメッセージを各自で考え、それを実際に言葉として発してみる。ロールプレイ等を行い、その時にどのような感情になるかを、皆に体験してもらうことで意識が浸透するよう工夫している。また講座を受講した中学生が、家庭でもデートDVについて話す機会が持てるよう保護者向けにデートDV予防啓発講座を紹介したチラシを渡している。このチラシでは中学校以外のPTAの研修等でも受講の申し込みを受け付けていることを紹介している。
28	ピア・サポートを学ぶ大学生や高校生がデートDVについて学び、高校や中学に出前授業に行くスタイルをとっていること。
29	事前授業と事後授業を実施(担当教諭が何をするかをこちらが提案し、その内容を当日の講座へ反映させている。ロールプレイやDVDなどの視聴、グループでの話し合いなど(1クラスのような少人数の場合)を盛り込む。
30	ジェンダーバイアスについては、ロールプレイを使うなどして詳しく説明している。また、学校の要望に沿うようプログラムの内容を検討している。DVDやロールプレイを入れて、飽きないように工夫している。
31	活動している女性と子どものヘルプライン・MIEでパンフレットを作り、それを見ながら講演する。その学校に合わせたパワーポイントを使う。意識チェック→DVD視聴→ロールプレイ→DVD視聴→ロールプレイと変化をつけて一方的に聞くだけではなく生徒にも参加させて、話が長く感じさせないようにしている。
32	・ 中学生以下を対象に実施する際、「デートDV」という言葉に抵抗がある(まだ早いと考えている)実施先があることから中学生以下では「男女平等教育」として出前講座を行っている。 ・ 年度当初に、市内の保育園・幼稚園の園長や、小学校・中学校の校長が集まる場で実施についての説明を行っている。

33	プログラムのベースはありますが、毎回学校の担当者と打ち合わせを丁寧に行いその学校の課題やねらいを聞いたうえで、学校毎にプログラムを組み提案するスタイルです。プログラムは生徒さんとお話をしながら進めます。対象者が分かる言葉を使う、できるだけ行動変容につながるように、指導的な方法ではなく、生徒さんの利益になるような伝え方を工夫しています。ロールプレイや、短い動画、ワークシート等々を入れています、最近、飽きないようにダイアットのタイミングや視覚的に3分ぐらいの動画で話題提供するなど、この年代が普段使っているツールに合わせたものも提供するようにしています。
34	セクシュアリティについての理解、特にSOGIについての理解を深める。いろいろな差別についての内容も盛り込む。
35	子どもたちがDVの背景にあるジェンダー規範に気づくこと、支配とコントロールが起こる関係は異性愛カップルだけではないこと、同じ構造がいじめなどにも存在すること、被害者にも加害者にもならないような主体性をもった生き方の選択ができるようになること、そのために自分の心やからだの状態を認知できるようになること、考え方を押し付けることのないよう子どもたちをエンパワーすることを心がけて取り組んでいます。学校側の取り組みへの思いとこちらの思いに温度差があるとき、取り組みへの困難さを感じる。そのことにより、子どもたちにもたらされる効果に差が出るものと把握している。
36	①最初にデートDVに関する質問表に答えることにより、自分自身の中にある知識の偏りを知る。②生徒自身が演じる3シーンの寸劇を通してデートDVの例を知る。③パワーポイントを使った講義④講義後、再度寸劇を見て、対等な関係の大切さを学ぶ。⑤WAVOCのDVD「ずっと一緒にいたいから」を視聴⑥まとめ という授業の流れを通して、デートDVの正しい知識を、できるだけ共感を持って得てもらう。また同性カップルにもDVは起こりうることを話して、LGBTへの理解。面前DVにあう子どもたちの気持ちに触れると同時に、みんなは暴力のない生き方を選ぶことができると希望を持つことができるよう配慮している。
37	中学生向けには、大学生のボランティア（ユースリーダー）を養成し、専門の講師とともに授業に出向いて、一緒にプログラムを行っています。なるべく身近な問題と捉えてもらうために、中学生と歳の近い大学生が前で話すことに意味があると考えています。大学生向けには、事前に大学の教員などと打ち合わせを行い、学生の傾向などをつかんだうえでプログラム内容を修正し実施しています。当センターの職員が講師を担うことで、経費を抑える工夫をしています。
38	1、始める前に必ず、これからのお話でしんどくなったら、先生に知らせてください、無理をしないでくださいと伝えている。 2、時間配分、同じプログラムでも学校によって工夫している。 3、参加者の態度、表情に留意しながら、適度にその場の雰囲気大切にしている。
39	事前に先生方との打合せを必ずおこなう。毎年実施の学校でも、生徒さん方の様子や先生方が気になっていること等伺い、実態に応じた内容を組み立てるとともに、対応等先生方をお願いしたいことも伝える。自分ごととして考えてもらえるように、生徒たちによるロールプレイや、生徒の声を多く拾うインタビューを必ず取り入れる。DV防止に大切なジェンダーバイアスについて友達同士で話し合う時間を必ず作り、先生にも経験を語ってもらい、聞いて流すだけでなく考えられる工夫を取り入れる。また、「リベンジポルノ」や「JKビジネス」等、児童・生徒さん方が受けやすい被害についても情報提供を行うなどの工夫もしている。
40	・最初に簡単な質問表に答えることで、生徒の持っている暴力についての考え方を認識させる。 ・生徒自身が演じるDV関係にあるカップルの寸劇を見る ・最初と同じ場面を同じ生徒が今後は対等な関係として演じる ・演じた生徒へのインタビューを実施する。 友人が演じることで、生徒がデートDVを身近な問題と感じることができて授業への関心が高まる。 ・講義用のパワーポイントは図やイラストを使ったり、中・高校生にわかりやすい言葉を使うなど工夫している。
41	①映像やロールプレイを入れる。 ②普通はこう考える人が多いけど、そこが問題と言って自分の事としてとらえるようにする。 ③受講生全員に、県で作成した冊子、リーフレットを配布。 冊子 もしかして、デートDV？知ってほしいな、ホントに大切なコト (どんなことが「デートDV」なのか、すてきな関係とはどんな関係なのか、漫画形式でわかりやすく説明した冊子。) リーフレット 性暴力救援センターわかやまmine (マイン)
42	支援現場の事例から解決型・寄り添い型を伝える
43	・学校としっかり打ち合わせをし、その学校の生徒が理解しやすい言葉やPPに変えている。 ・学生時代は、特に、ジェンダーバイアスを感じないという生徒もいるが、ジェンダーギャップ指数や男子もジェンダーバイアスのある社会はしんどい事を、過労死や自殺率などのデータを交え伝えたり、ワークをしたりする。 ・性的自己決定権の中で、同意や、ジェンダーの問題を取り入れる。 ・先生方が、プログラム中に「力と支配」の指導を行わないよう事前に伝える。

	①事前アンケートの結果を講座の内容に反映させる
44	②ロールプレイを組み入れ、具体的にイメージしてもらう
	③必要に応じてアニメーション動画を活用する
	昨年度はありませんでしたが、大学や高等専門学校から依頼されることもあります。中学生と大学生では意識も知識も差があります。当然伝え方も学齢に応じた分かり易さを重視します。
45	スライドを用いてプログラムを進めますが、統計を示したり、問題点を分かり易くしたり、シンボルマークを表示したりして視覚からも理解度を高めるように工夫しています。たとえば中学では、対等という言葉を理解してもらうために、釣り合ったシーソーの上に二人が立つスライドを作り、吹き出しに「対等で平等な関係だよ。」「お互いを尊重しているよ。」など入れます。
	なるべく一人ひとりが考えられるように時間を取り、生徒さんたちに発言してもらえるようにインタビューをします。また、必ず生徒さんたちにロールプレイをしてもらい、感想も聞き、自分だったらどのように対応するか聞きます。
	私の百の言葉より、生徒さんたちのひと言の方が皆の心に響くと考えからです。
46	・伝えたい内容を吟味し絞り込む。支援員と共に考え教材を作成。 ・参加者が集中して参加できるよう工夫する（構成、パワーポイントのデザイン、マンガのケース、ワークを取り入れるなど）。
	・鳥取県が事業として取り組んでいる点がユニーク。費用負担は県が行うので、学校側は印刷代のみ負担という点も取り組みやすいのではないだろうか。この事業は平成23年度からスタートしたが、スタート時から教育委員会等と連携して、年度当初に、教育委員会等から高校等へ「人権学習講師派遣事業」の一つとして案内していただいていることも、周知として効果的。
47	・映像を随所に入れ、分かりやすく具体的にメリハリをつけている。・事前の打ち合わせにより、学校の要望や対象年齢層に応じた内容、表現方法等のカスタマイズしている。
48	県内の事例（紙面等で掲載されたもの）で身近な問題と気づいてもらうことやストーリーカーやリベンジポルノを説明している。男子学生には男性がDVを学び加害者を止める大人になって欲しいと伝えています。看護学校、大学の看護学科、助産学科に呼ばれるときはDVの第一発見者になるかもしれませんと伝え学んだことを将来の現場で活かして欲しいと言っています。
49	・デートDVに関する専門的な知識を持ち、講演実績のあるNPO等より専門家を派遣する （デートDV防止ふくおか（リップルふくおか）、NPO法人FOSC、DV防止北九州 メープルリーフの会）。 ・受講対象者に応じて講演だけでなくロールプレイ等により若年層がDVを身近な問題として感じ予防啓発につなげていく。 ・講師派遣に対する謝金、旅費は〇〇市が負担する。
50	・デートDV防止授業の必要性、重要性を、学校現場や行政が認識すること。実施の際は、地域の相談機関とも連携をし、個別相談への対応をおこなえるようにしておくこと。 授業の後、実際に相談をしに来た児童を相談機関につないだ経験を複数持っています。デートDV防止授業を決して帳面消しのような催しとせず、参加した子どもたち一人ひとりの心に残る授業とすること。
51	言葉の選び方、伝え方については、日々検討を重ねています。日常的な会話や無意識にやっている行為が暴力ではないか自分で問えるように伝えている。デートDVについては、事例やDVD（当事者のインタビュー）映像を使って、客観的に関係性の歪みに気づけるように一緒に考える時間をつくっている。コミュニケーションワークでは、ロールプレイなどをしてもらい、身近な問題として捉えてもらえるように工夫している。
52	実施者は保育士と中高教員資格者であり、学校や生徒の様子を事前にキャッチした上で、学校担当者と打合せ、深める部分や外す部分を検討する。役割劇は演劇部や生徒会が協力してくれるが、難しい場合は先生にお願いをして生徒の関心を引き寄せる。チェックリストを導入として展開させ、後半に役割劇を入れグループ討議やワークシート記述を行いまとめていく。実施者は公的機関相談員経験があるため、終了後に話をしたい生徒と面談を行い、学校と今後について対応すると共に、緊急事態にも相談を受け助言する。終了後アンケートは、記述を含め集計を全て学校に提供する。中学生については「奇跡分の1で生まれ、そのまま素敵な命」であることを伝える。活動地域が10代の中絶件数が全国平均の倍であることから、地域の中絶件数や性感染症も伝える。
53	事前に担当者と打ち合わせをして、授業を受ける方々について知る。先方のニーズを知ることが心がけている。そのうえで事前に指導案を送り、確認してもらう。
54	プロジェクターで表や絵などでわかりやすく表示しながら話をしたり、子どもたち自身に考えてもらうように質問したり、ワークシートに書き込んでもらったりしています。また、生徒自身によるロールプレイ（劇）も交えながら、対等な関係を築く言葉づかいなどについても伝えています。

55	ロールプレイなどを使って参加型のプログラムで生徒自身が考え、体験する機会を作る。パワーポイントを使うことで、授業者が統一した内容で話せるようにする。生徒の反応や社会情勢を見ながら、毎年、プログラムを改訂しており、毎夏、それを授業実施者や授業実施希望者で共有している。授業の最後にまとめになるような短時間のDVDを見せている。
56	・親しみやすく分かりやすい「デートDVリーフレット」を作成し、高校生以上を対象としたセミナーで配布 ・セミナー講師となる人材の育成
57	デートDVに関する専門家による講演会のほか、大学生等によるワークショップ形式でのコミュニケーション講座を実施している。
58	事前の打ち合わせを十分に行い、先生方には参加者への配慮をお願いする。参加者に対しては、参加の度合いを自分で選んでよいこと、お互いの違いを認め合い尊重して欲しいことをお願いする。参加型学習とし、できるだけ楽しい時間の中で皆さんと考えていく。デートDV事例のDVDを見て、デートDVにならないように皆さんで考えてもらう。時間が取れると皆さんで考えたシナリオを演じてみる。一方的な講義にならないよう皆さんの意見をできるだけ多く出してもらうよう工夫している。90分間のプログラムだが、授業の一コマで実施すると時間が不足するので、時間内に終わるよう工夫している。
59	パワーポイントを使って、二人の講師による講義と、DVD視聴、ロールプレイなど盛り込んで、分かりやすい内容で実施しています。講師として気を付けているのは、子どもたちと対等であるという気持ちを持って言葉かけをしていることです。子どもたちの力を信じて、子どもたちが自ら考えるように、教えるというのではなく、「私はこう考えます」というように対等な関係を感じてもらおうようにしています。そのことが相手を尊重することにつながっていくと考えます。また、正しい情報としてデートの本質は力の不対等の構造から起きる問題であることを図を使って伝えています。
60	・申請のあった学校や団体と事前にしっかりと打ち合わせを行い、ニーズに合った内容で実施できるよう努めている。 ・一方的な講義にならないよう、途中でワークやクイズなどを入れている。 ・同性間や女性から男性へのDVもあることも伝えている。

c.予防教育を進めるために必要なこと

公開「可」の団体のみの記述です

1	学校では、外部に講師を依頼するには費用の面でハードルが高いようで、教育委員会等が費用負担して欲しい。
2	すべての子ども達が受講できるように、毎年、同じ学年での実施するようにして欲しい。
3	学校の理解・協力のもと、実施できていることから、学校との連携が必要と考えます。
3	〇〇人権擁護委員連合会と連携し、人権擁護委員による講義を行っている。
4	教育機関および関係者に対し、「力と支配」の暴力構造の気づきと学びが恋愛関係にとどまらず他の人間関係における暴力防止につながることを強調する。若い人たちを暴力の加害者にも被害者にもさせないためのデートDV防止教育の取り組みは、将来的な大人のDV防止につながり、また自身も他者も共に大切にするという点から友人間のいじめ防止、自殺防止、ひいては公衆衛生の観点から暴力のない社会づくりにつながる広汎な効果と影響を持つものである。また、若年期からジェンダー対等性を希求する姿勢を身に着けることは、性的マイノリティーへの理解、多様性への対応、そして自己実現能力を高め、SDGsの国際的人材育成にもつながる。若い人たちに直接接する講座実施者は、自らの無意識下のジェンダーバイアスに気づき取り除こうとする姿勢と努力を通して、「対等・尊重」のロールモデルとしての姿を示す自覚が求められると考える。
5	当会では、2014年度に〇〇市議会に市内の全中学校と教員に対して、デートDV防止教育を実施するよう請願し、認められた。しかし、その後の実施状況をみると男女共同参画についての小冊子の一部にデートDVについて記載し、それを全中学校に配布するという対応にとどまっている。何度か教育委員会に実際にセミナーを実施するよう申し入れたが、現状は変わっていない。実施機会を増やすためには、デート防止教育の必要性和効果について、広く社会に知らせることが必要だと考える。その役割を貴ネットワークに期待している。
6	講師派遣などを無料でお願ひしたい。
7	教育委員会・学校からデートDVに対する問題意識を持ってもらい、より積極的に講座実施に協力してもらえるように働きかけていく必要があると感じている。
8	・デートDVの被害は身近で起こっているものであるが、被害者がデートDVの被害にあっていることに気づいていない場合も多い。学校、教育関係者にもデートDVについての知識を深め、啓発、普及活動に取り組むのか望ましい。
9	学校教育の一環として、小学校、中学校、高校の各学年で、段階に応じて毎年実施できるように、文科省、教育委員会に働きかける。
10	◆実施機会を増やすために ・各県の行政機関(男女センター等)が実施団体リストを作成して、実施希望の市町村や学校に周知してほしい。 ・子どもへのデートDV防止プログラムを増やすためには、おとな向け講座(教職員・保護者・地域のおとな)も、もっと実施していく必要があると思う。女性の人権講座、あるいはDV防止講座の中のメニューとして、「デートDV」について、取り上げていくのも一つの方法たと思う。
11	・中学校での実施が、教育委員会の壁でできない。教育委員会のデートDV防止に関する理解を深めるためにも、内閣府や文科省への働きかけが必要である。 ・実施予算の確保。
12	やはり子どもたちや若者たちが集う教育現場＝学校で実施出来るようにすることが一番大事！一度に多数の人に伝えられるということだけでなく社会認識として共有できるようになることがとても重要。生徒たちや先生方にアンテナが立つようになれば、気づいていない子や渦中にあるカップルへの支援が早く届くようになるからである。学校と連携を取るためには行政(県や市)への働き掛けが不可欠であり、最終的には国への働き掛けが必要です。そのためにこそ「デートDV防止全国ネットワーク」が結成されたのだと認識しています。
13	教育委員会や、学校の先生方に、デートDV防止教育の必要性を理解してもらうこと。特に中学校、小学校など、早い時期から情報を伝えること大事であることを理解してもらいたい。
14	・中学校や高校で実施をしたいが、学校側の理解が得られず実施が難しい状況である。都の教育委員会などから通達を出すなどし、学校側に実施の必要性についての理解を促してほしい。
15	当団体の運営資金は会員の会費、寄付等のみで賄われています。公的助成金等あればさらに実施機会も増やせると思います
16	行政、特に教育委員会の理解。
17	実施機会増加のために必要なこと：教育現場の管理職にデートDV予防教育の重要性を理解してほしい。 ・行政機関、教育委員会、男女共同参画課、子育て支援課等の理解協力を得て学校の負担少なく実施する機会をつくる。
18	・まずデートDV防止講座を実施していることを知ってもらうための広報活動の必要性を感じる。口コミでも伝わる場合があると考える。

19	講師のなり手が不足している。専門的知識を持ち、かつ学校の事情にも詳しい方を希望するが、なかなか若い人材がいない。人材育成のプログラムを、全国で開催して欲しい。また、講座の開催情報を定期的に教えてもらえるとありがたい。
20	・ 貴ネットワークからの行政などへの広報もお願いしたい。 ・ デートDVの予防啓発を考えると中学校での実施が必要と思う。 当団体では〇〇県〇〇市から委託を受け、市内全4中学校で「コミュニケーションセミナー」として、友達とのコミュニケーション、交際相手とのコミュニケーション（デートDV予防啓発）を考える講座を実施している。「デートDV」にちょっと抵抗感がある中学校も多いと思われるので実施してもらいやすい内容の工夫が必要だと思う。砺波市では男女共同参画の担当課職員が中学校校長会に説明し、理解を得て、実施している。 ・ 「デートDV」の中でも性的暴力は若い世代にとって深刻な問題であり性教育とセットで実施することが有効だと思う。
21	デートDV予防（防止）教育の必要性を全国の市教育委員会・県教育委員会・校長会に理解を求め、中学・高校での全校実施を実現して欲しい。
22	実施側では、多回実施に対応可能なファシリテーターの数を確保すること、受け入れ側として、現在定期的に実施している中学校以外にも講座の必要性・重要性を理解してもらう多くの機会が必要。
23	広報、教育委員会への営業、事務担当職員を置く、講師の養成、電子媒体でのデートDV教育の必要性を広報
24	高校を中心に保健の授業の一環として実施させてもらっている。養護教諭の先生方はとても必要性を感じてくださっており、そのネットワークで実施は広がったので、そういうネットワークへの働きかけは実施を増やすのに有効だと思う。
25	・ 実施先への働きかけ
26	予算をこちらが獲得するか、もしくは行政などへの申請で予算が下りるなどの情報を渡すことで、実施校は飛躍的に増えると思います。こちらが、助成金を獲得し、無料でワークショップを提供した年度は実施校が多かった。ネットワークから助成金情報など、メルマガにいただいていることは有難い。今後お願いしたい。ネットワークの他の団体が取った助成金や、行政からの委託の場合、委託先や〇〇事業の一環として、など教えてもらえると、同じように行政に掛け合いたいと思う。中学校、小学校では道徳が必須になり、高等学校でもその時間が割り当てられています、教員の方からは、道徳の時間にこのプログラムを入れてもらえると有難い、とよく聞きます。当地域では道徳に予算がついていないので、その辺の難しさを感じています。
27	親の世代にも「デートDV防止教育」の必要性を広める。
28	現状では、依頼にこたえていくための人材の確保と育成が必要になってきています。実施機会を増やすには、公的な機関の職員の理解を広めていくことだと思います。
29	現状では、依頼にこたえていくための人材の確保と育成が必要になってきています。実施機会を増やすには、公的な機関の職員の理解を広めていくことだと思います。
30	2013年より、毎年市立中学校1～2校で授業をしてきました。各学校にコツコツと説明に伺い、費用面では助成金をいただいたり、学校にPTA、健全育成協議会、他の校費などの工面をお願いしてきました。2018年に市の施策として、デートDV等予防出張セミナー事業が始まり、2019年私たちのグループも実施団体として登録されました。この事業により、授業実施のためのハードルが下がるものと期待しています。実施機会を増やすためには、何よりも費用面の保証、それに先生方の意識が大切であると思います。まだ生徒は幼いという認識や、校内で対等な関係に関する理解が進んでいないと受け入れを難しく感じられるのではないかと思います。デートDV防止全国ネットワークには、今後もこのような調査や啓発を続けていただきたいと思います。地域で活動している私たちのような小さなグループにとって心強いです。
31	学校側の理解が必要であると考えます。高校・大学では一定の理解を得られてきたと感じますが、中学校ではまだ教員の中にも「必要ない」と考えられているところも多いと思います。しかし、一度内容を見てもらえると継続して実施できる場合が多いため、小学生・中学生向けには「デートDV」という名称を変更したり、工夫する必要があるかもしれません。また、委託先（講師）の数が少ないため、授業・講演のできる講師や団体がもっと増えれば良いと思います。
32	【実施機会を増やすため】 広報の徹底。数回にわたり情報を発信する。 【要望】 全国の実践者との情報交換の場
33	〇〇県では高校ではデートDV予防教育の必要性は一定理解されていると感じるが、アンケートによると高校生は「交際を始める前の中学校での実施が必要」と答え、実施者としても実感するところである。しかし、中学校での実施はなかなか進んでおらず、教職員の理解と経費負担がネックになっているように感じることから、デートDV防止教育の必要性を、教職員や保護者に知ってもらえるような啓発や研修機会は不可欠である。デートDV予防教育の義務化と行政による費用負担が望まれる。

	実施している学校のほとんどが、各自治体が予算設置し実施したものである。
34	学校単独で実施する場合は、費用負担の問題が大きいうでこちらが設定している費用を負担してもらえない学校もある。将来のDV被害者・加害者を出さないためにも、どの学校でも平等にデートDV防止教育を実施することができるよう、県・市町行政に対する予算設置を望むものである。
35	今後、実施機会を増やしていくためには、デートDV予防教育のトレーナー養成が必要と考える。
36	・DV授業を小中高大と必須とし、どの市町でも授業を受けられるように、国に要請する。 ・どの市町もDV対策として若年への啓発はあがっているのに予算がついていない。・ファシリテーターの養成が必須。
37	広報を充実させ、できるだけ多くの方にデートDVのこと知っていただく。
38	学校の先生方・保護者（PTA）・教育委員会の方々、様々な分野の方がデートDVが起きていることを把握し、若い人たちを対象にした予防・防止・啓発教育の必要性を感じるのだと思います。実は、問題が多数起こっているにも関わらず、当事者だけの問題で第三者が介入すべきではないと思っていたり、まさか防止教育が出来るとも思っていないのかもしれませんが、子供たちが被害者にも加害者にもならないように、学校という現場でしっかりと学ぶことができます。わたしが防止教育を始めた2007年の頃より社会の認識は変わってきているかもしれませんが、子どもに関わるもっと多くの人たちに知って欲しいと思います。また、質の高いプログラムを実施できる人材の確保の為に、きちんとした謝金を得られるように担保できるシステムがあると良いと感じています。
39	学校の先生方・保護者（PTA）・教育委員会の方々、様々な分野の方がデートDVが起きていることを把握し、若い人たちを対象にした予防・防止・啓発教育の必要性を感じるのだと思います。実は、問題が多数起こっているにも関わらず、当事者だけの問題で第三者が介入すべきではないと思っていたり、まさか防止教育が出来るとも思っていないのかもしれませんが、子供たちが被害者にも加害者にもならないように、学校という現場でしっかりと学ぶことができます。わたしが防止教育を始めた2008年の頃より社会の認識は変わってきているかもしれませんが、子どもに関わるもっと多くの人たちに知って欲しいと思います。また、質の高いプログラムを実施できる人材の確保の為に、きちんとした謝金を得られるように担保できるシステムがあると良いと感じています。
40	・デートDV防止授業の必要性、重要性を、学校現場や行政が認識すること。実施の際は、地域の相談機関とも連携をし、個別相談への対応をおこなえるようにしておくこと。 授業の後、実際に相談をしに来た児童を相談機関につないだ経験を複数持っています。デートDV防止授業を決して帳面消しのような催しとせず、参加した子どもたち一人ひとりの心に残る授業とすること。
41	ネットワークで、教材の共有や実施報告を行うなど経験の共有ができたらいと思う。
42	自治体の委託が始まってから、予算を気にせずに依頼しやすくなったと学校側に言われたことがある。実施側も交通費を気にせず、質を高めるための努力ができるようになった。予算的なことは大きいと感じる。
43	自治体（県、政令指定都市）で行われる配偶者からの暴力防止相談連絡会議において、実施実態を質問し、拡充のお願いをしている。
44	依頼があつての派遣実施ですが、待っていてもなかなか機会は増えないので、校長会などに出向いて説明をしたり、チラシを作って配布したり、実施していない学校に出向いて説明をおこなったりしています。
45	行政との連携、学校との信頼関係づくり、地道な広報や学校へのはたらきかけ、予算の獲得、教材を魅力あるものにする。 ネットワークへの要望　：　考え方の基本的な共有。国への働きかけにより義務教育で取り入れ、授業者が自立できるような財政基盤を作る方向を望みたい。各県それぞれに授業実施ができるような団体ができるとよい。
46	・デートDVに対する理解促進　・多くの学校へのセミナー開催の案内・声かけ
47	実施機会を増やすために必要なもの 子どもたちがデートDV（暴力）に巻き込まれている現状を大人たちは知らなさすぎだと思います。まず大人たちへの啓発活動が必要だと思います。そこから子どもたちへ伝えていくとよいのではと考えます。また、実施にあたっての講師派遣費用など、市の予算では不足しがちであり財政的な支援があればさらに活発な実施が可能となるのではないかと思います。
48	郡部の市町村の男女参画課や教育委員会へプログラムの実施のための要望書や啓発資料を準備し、機会あるたびに送付しています。会報に子どもたちの感想を記載して、会員や一般市民に向けて、プログラムに興味を持ってもらうように努めています。要望としては文科省へ、中学校・高校の学校のカリキュラムにデートDV防止の授業が、入るように、働きかけをお願いします。
49	若年層向けの事業に力を入れているところですが、学校からのオーダーのほとんどがLGBT関連となっており、デートDVや暴力防止についての講演依頼が減っている状況です。 予算に限りがあることから、講演の定数を増やすということもできないため、デートDV予防啓発に対する予算がしっかり確保でき、教育委員会や学校と協働で実施できるような仕組みが必要だと思います。

d.その他の意見

公開「可」の団体のみの記述です

1	学校関係者、教師がデートDVに対する理解を深め、学生時代に予防教育を受けるの大切さを理解して欲しい。
2	実施者ネットワーク構築の必要性を感じながら、限られた人的・財政的資源の中で一歩を踏み出せないでいました。幅広い団体を取りまとめいただいて感謝しています。あらゆる社会に横たわるジェンダーの不对等性とそこに根ざす歪んだ価値観が（デート）DVの大きな因子であるという国連、WHO、欧州評議会をはじめ国際機関の見解など、デートDVをなくしていくことを目的とする活動の中でジェンダーテーマは外せません。ジェンダーは全ての性に関わる社会的問題です。
3	若い人たちが自ら判断できるよう、彼らの知る権利としてジェンダーを含め十分な包括的情報を与えられるべきだと考えます。さらに、2030年達成を目指すSDGsの世界目標の中で「ジェンダー平等は基本的人権課題としてだけでなく、持続可能な世界とその繁栄のために欠かせない基盤でもある」と数々の国連文書に明記されています。ジェンダーを中核に据えたプログラムの重要性への理解を強く望みます。
4	当会での13年にわたるデートDV防止セミナーの実施の経験を通して、DVを防止・根絶するためには、できるだけ若いころ（子どもの頃）からお互いを尊重する関係づくりについて実践的に学ぶことが必要だと確信している。日本においては、いまだにジェンダーが根強く、対等な男女関係のお手本が社会全体に非常に少ない。学校という場で、同世代の子どもたちが一緒に考え学ぶ機会を増やし、性別やその他の違いなどにかかわりなく、お互いをかけがえのない存在として認め、尊重しあう意識と態度を養うことが必要だと考える。
5	デートDV（DV）はコミュニケーション力の問題ではない。社会の中に根強く残っているジェンダーバイアスが根底にあり、自己正当化や暴力容認、支配へとつながっている。暴力はNOと言いながら、この場合は仕方がないと容認する人も多い。DVは負の世代間連鎖の危険性が高いとのデータがある。子どもたちはとても影響を受けやすい。平等にこの世に生を受けた子どもたちに負の連鎖を背負わせてはならない。それぞれが自分らしく生きる力と心を磨き、DVの被害者にも加害者にもならないように、日本のどこに住んでいても、質の高いデートDV予防教育を受けられるようになることを期待したい。
6	DVやデートDV防止において、ジェンダーの問題について、気づくこと、考える事は非常に重要である。被害者がなぜ、女性が多いか？なぜ女性の地位が低いのか？どんなに平等平等と言おうと、全ての人がジェンダーバイアスを持っている。そのことに気づいて行く事、そのことを伝えて行く事は、暴力防止の最重要課題である。
7	・1団体が県への要望をしてもなかなか取り合ってくれない。DV防止全国ネットワークとして、暴力の防止に関する教育の必要性を伝える取り組みが必要である。
8	20年前子育て支援事業のなかで、子どもたちの性被害が多いこと、にもかかわらず臭い物に蓋で何も対策が講じられないことに驚かされた。今も相変わらず「性」はタブーであり(性情報の氾濫にも拘わらず) 一般の人にとっては性を語る言葉さえない?! 地域で性教育活動を展開してきたが、思春期になった子どもたちがジェンダー・バイアスに囚われ、結局男女対等な関係性からは程遠い行動や決定を当然のように受け入れていることに再び愕然!? 科学的な性の知識をいくら習得しても性がジェンダーに組み込まれている限り、性の不平等は解消されないと気付いた。ぜひ「デートDV防止教育」はジェンダーを外さずに行ってほしい。
9	各中学校とも高校入試終了後の中学3年生に実施を希望するため、実施時期が3月上旬に集中し、講師の確保や日程調整が難しい。
10	若年層への暴力回避等の啓発活動が一層望まれます。そのためにも若年層へ向けての出前講座に力を入れたいと思っています
11	・社会や行政に対しても、なるべく早い年齢（中学生）からデートDVについて知ってもらふ必要性を伝えていきたい。
12	・教職員を含む大人たちに、DVやデートDVを理解する研修や、ジェンダー教育の機会をもってほしいと考える。そのきっかけとしても本講座を位置づける。
13	地元の若い人とつながることができるイベント等を開催して欲しい。
14	たくさん子どもたちに聞いてもらいたい気持ちはありますが、時間と労力、気力、能力の不足を感じます。
15	ネットワークで、NPOなどの団体が繋がることは、今後ますます重要になってくると思います。発信団体として、情報共有の場として、学びの場として、今後もよろしくお願いします。
	多様な性の子どもたちが自分のことを大切に思えるように。誰でもが大切にされる社会になること。
	全国ネットワークに所属するための人的・財源的余力が、当法人にはありません。
	加えて、主な活動エリアが関西であり、また当法人がデートDV予防教育のみに取り組んでいる団体ではないため、距離的にも関わりが希薄になってしまいます。協力できずに、申し訳ありません。

16	私たちのグループは、地域の役員などをしているメンバーが多く、日頃地域の学校とお話させていただく機会が比較的多いです。このことも授業をさせていただく上で、プラスになることがあったと感じています。また行政への働きかけや、アピールも大事だと思います。まだまだ道は遠いですが、学校、行政、また地域とともに進んでいくことができたかと考えています。
17	子どもたちの将来の人間関係作りにはデートDV防止教育の義務化が必要だと実感している。子どもたちも「関係作りにとっても役に立つと思った」と感想に書いてくれることが多く、デートDV防止教育が全国一律に広げることが必要である。また、プログラムには、DVが起こる根底にある「ジェンダーバイアス」「暴力容認」「力による支配」が均一に盛り込まれることが望まれる。デートDVの予防は大人になってからのDV防止にもつながる。そのためにはDVはコミュニケーションの問題ではなく、ジェンダーの問題でもあることを明確にプログラムに入れるとともに、私たち大人も自分たちのまわりにあるジェンダーを原因とする事象について気づき、見直す必要がある。
18	全国の予防教育実施者がシングル単位思考の重要性を知って、伝えていってほしい。
19	＊ 支援現場からデートDVの被害の実態と支援の経過を伝えるのは講師の意義を感じるが、スタッフ不足と次世代の育成に繋がらない環境にある（他の事業の実施から）ので講師を引き受けられない事がある。＊ 教師の悩み→「被害者の女性には休校とか次の支援が継続的に行われるが、加害の男性生徒は退学となり、継続的な支援が届いて無い。その後、自死をした男性生徒がいる。私は何もできなかった一生その子への罪を背負って生きていくのです」←他の先生からも加害男性生徒への関りが出来ないことを悩んでいました。 ＊感想文の中に「DV」の話を聞いて自分もDV家庭で育ったのだな。これまでモヤモヤした気持ちで生きてきたが、DVの構造をきいて少し気持ちが少し楽になった。←よく似た感想が寄せられてます。
20	・DVが背景にある虐待事件が後を絶たないが、その背景を読み取れない支援機関が多い。 ・デートDV防止予防教育は、学校にとどまらず、企業研修などにも取り入れてほしい。 ・傷ついた子ども、DV家庭に気付く子ども達のケア、相談から支援に繋がられるよう、信頼できる大人を増やさないといけない。相談しようと伝えているが信頼できる大人はどこにいるのか？ ・DVの支援をしていると行き詰まることの多い中、出前授業は、未来ある若者と接して希望のある役割だと感じる。どうやったら内容が届くか・・・試行錯誤しながら続けて行くことが大事だと思う。
21	デートDVを受けている人へ：自分を大切に！どんな理由があっても暴力は「ふるう方が悪いのです。「あなたは悪くない！」。 暴力をふるってしまった人へ：大切な人を傷つけていることに気づいていますか？どんな事情があったとしても、暴力を振るっていいという理由にはなりません。 デートDVを起こさないために：相手を尊重する。自分の意見や考えを押しつけず、相手が自分と異なる意見や考えを持っていたとしても、違いを認め、受け入れて相手にことばで伝えましょう。
22	児童虐待をはじめ家族の中の暴力、あるいはいじめ・パワハラなどの問題解決のヒントになると考え、デートDVの防止教育を学び、県内の中学・高校・大学等で実践してきました。デートDVを人権問題としてとらえ、ジェンダーやセクシャリティーの問題・リベンジポルノ等の危険性・将来の人生設計やワークライフバランスの考え方について学び、そして何より、誰もがエンパワメントし素敵なおとなになって欲しいと思っています。全国の実施者たちが、今後一人でも多くの子どもたちに啓発できればと希望します。
23	若年層の時から意識改革は重要であり、男女共同参画に関する副読本を用いた子どもの頃からの男女共同参画への意識の醸成を図る取組や高校・大学などでのデートDV予防教室、DV啓発リーフレット配布の取組などを継続していきたい。
24	他の相談支援業務が多いため、筆者の団体が防止教育事業の担い手としてPRはしていない。依頼があれば受ける程度なので年1回程度行っている状態です。1度伺った大学からは翌年もオファーがっております。
25	デートDV防止授業の実施にあたっては、NPO法人「DV防止ながさき」の力によるところが大きいと感じています。授業だけでなく、事前・事後の個別相談などにも対応できています。日ごろからDV被害者の支援や、加害者更生プログラムの実施などに尽力されている会の皆さんの地道な活動が15年になり、これまでにDV防止授業を受けてきた子ども達が親世代や教師になっていて、暴力のない環境づくりに成果が表れ始めていると思っています。
26	DVを無くすためには、予防教育が重要です。このことは、大人のDVの防止、児童虐待の防止、貧困や暴力の連鎖を無くすことにもつながります。そのためには、DV予防教育への理解を広め、必要性を訴えていくことが大切と考えます。
27	〇〇県は、直営で「デートDV防止セミナー」を開催・運営（講師選定・派遣、講師謝金・旅費支出等）している。
28	若者の恋愛観や傾向を把握するのに、本やドラマ、ネットの情報や報道などを通して、実態を把握するように努力しているが、地域では限界があるので、ネットワークを通じて、意見交換等の機会があれば、参加したいと思っています。

特定非営利活動法人デートDV 防止全国ネットワーク

全国でデート DV 防止や支援に関わる活動をしている機関、団体、個人に対して、予防教育の普及を促進するための調査研究や政策提言、当事者支援のための連携、啓発活動等に関する事業を行い、デート DV のない社会の実現に寄与することを目的に活動しています。2018 年 11 月法人化。

団体ホームページ：デート DV 情報発信サイト notAlone <https://notalone-ddv.org/>

デート DV 予防教育実施状況調査報告書

発行：2020 年 3 月 1 日

発行者：特定非営利活動法人デート DV 防止全国ネットワーク

ddvbousinet@yahoo.co.jp

本書の内容の一部あるいは全部を無断で複製複写（コピー）することは、著作権上認められている場合を除き、禁じられています。本書のデータや文書を引用する場合は、必ず出典を明記いただき、当団体へ連絡をお願いいたします。



Supported by
日本財団
THE NIPPON
FOUNDATION